

大阪歴史博物館年報

平成31（令和元）年度



大阪歴史博物館

令和2年8月

目次

はじめに	1
展観事業	1
資料収集	6
資料のデータ整備・特別観覧・貸出し	8
教育普及事業	9
学校連携事業	11
ボランティア関連事業	12
連携事業・大阪歴史博物館友の会との連携	12
文化庁補助金による取り組み	13
広報宣伝活動	14
刊行物	14
調査研究活動	14
平成31（令和元）年度入場者数	20
受嘱・派遣・視察	20
利用規程	22
運営組織	23

はじめに

令和元年度（平成31年度）を振り返ると、この一年は二つの理由より当館にとって文字通り激動の年だったといえる。まずあげるべきは、当館の属した公益財団法人大阪市博物館協会が、地方独立行政法人大阪市博物館機構へ移行した事実である。地方自治体が設置した博物館施設の地独化は全国で初めての例となった。初年度ということもあり、地独の特性を十分に理解・活用したうえで活動が展開できたとはいいがたいが、組織面で3名の学芸員を補充し、さらに民間から総務課長を登用した上で業務見直しに着手するなど、新たな一步を踏み出すことができたといえよう。また事業に関しても特別展が堅実な成果をあげるなど、おおむね年度計画に沿って着実に進めることができた。

その一方で、新型コロナウイルス感染症の一件は大きな影を落とした。1月後半より猛威をふるいはじめた感染症拡大防止のため、当館は令和2年2月29日（土）をもってやむなく休館に入った。折しも自主企画の特別展「猿描き狙仙三兄弟－鶏の若冲、カエルの奉時も」が開幕したばかりであった。そして、その後休館は延長され、本展のみならず陳列が完了していた特集展示「発掘成果から考える 近世都市「おおさか」の食文化」も公開がかなわない結果となってしまった。これらの展示作品については当館ツイッターによる紹介を開始したものの、状況の悪化はわたしたちの想像を遥かに超えており、今後の社会生活に多大な影響を及ぼすことが懸念される。

しかしながら、全世界を巻き込む今回の危機は、当たり前のようにやってきたわたしたちの日々の暮らしが、さまざまな事由による社会的変動の歴史の上に成り立っていることをあらためて気づかせてくれた。先人の努力・叡智に学びながらこのたびの状況を乗り越えていく博物館としてのアイデアや活動を広く示していきたい。

大阪歴史博物館 館長 大澤研一

展観事業

常設展示

●10階：古代フロア

「難波宮の時代」ハイライトコースでは、奈良時代の後期難波宮大極殿を実寸大で再現するとともに、宮廷儀礼の再現映像を上映している。また映像の合間には、展望窓から実際の史跡公園を展望することができる。実物資料展示では、国の重要文化財に指定されている5世紀の船形埴輪や難波宮跡出土の遺物を展示している。

●9階：中世近世フロア

「大坂本願寺の時代」では中世大阪の町の様子を、大坂本願寺御影堂や町並みの復元模型、実物資料などから紹介している。「天下の台所の時代」ハイライトコースでは、江戸時代の大坂の景観を、中之島の蔵屋敷や船場の町並み、長堀の住友銅吹所、道頓堀の角の芝居といった復元模型や、壁面のグラフィックにより紹介している。実物資料展示では、大坂の町・産業・芸能・学問などに関する資料を紹介している。

●8階：「歴史を掘る」フロア・特集展示室

「歴史を掘る」フロアでは発掘現場の再現を行い、ワークシートやパズルなど、考古学について体験的に学べる場を提供している。特集展示室では、館蔵品のコレクション展示や大阪に関するテーマ展示などのミニ企画展を、1～2ヵ月程度の期間で実施している。

●7階：近代現代フロア

「大大阪の時代」ハイライトコースでは、近代都市・大阪の諸様相を、原寸大で再現した公設市場・町工場・「心ぶら」などから紹介している。実物資料展示では、政治・経済・くらし・文化に関するさまざまな資料を多方面から紹介している。

●難波宮跡 遺跡展示

博物館・NHK大阪放送会館の敷地には、前期難波宮の大規模な倉庫群（内裏西方官衙）があった。建物の地下には、発掘調査で明らかになった倉庫や塀などの遺構が保存されている。また博物館の敷地南側は遺跡公園として整備されており、発掘調査で見つかった古墳時代の大型倉庫群16棟のうち1棟が復元展示されている。

●タイムカプセルEXPO'70

昭和45年（1970）日本万国博覧会が開催された際、毎日新聞社と松下電器産業（現パナソニック）により、当時の生活・文化を代表する2,098点の品々を収納したタイムカプセルを、大阪城天守閣前に埋設する事業が実施された。現地には2基が埋設されているが、当博物館の1階北東のエスカレーター奥に、同型品を展示している。

常設展示更新の状況

階	コーナー	内容	展示期間
10	難波京の風景	奈良時代の新羅土器	12月11日～3月30日
10	特設コーナー	長原遺跡から出土した弥生時代中期の鋳造関連遺物	5月8日～2月11日
10	特設コーナー	加美遺跡Y1号墳丘墓出土の土器	2月13日～3月30日
9	四天王寺と門前町	小出秀政禁制	5月1日～6月24日
9	四天王寺と門前町	四天王寺文書	6月26日～
9	天下一の城下町	大坂城下町跡から出土した豊臣時代前期の鋳造関連遺物	5月15日～
9	天下の台所	大阪市内出土ミニチュア土製品・型	2月26日～
9	天下の台所	両替商の天秤ばかりと分銅	3月20日～
9	まちの生活	河内守国助一門の刀剣	7月24日～8月19日
9	まちの生活	久留米藩蔵屋敷図屏風	8月21日～10月14日
9	まちの生活	堂島陶器窯出土品	10月16日～2月3日
9	まちの生活	雛人形	2月5日～3月9日
9	町人の文化	朝鮮通信使	6月26日～8月26日
9	町人の文化	道中記	8月28日～
9	町人の文化	春にちなむ近世絵画（森一鳳「桜雀図」、岡熊岳「桃林結義図」ほか）	2月26日～
9	幕末・維新の大坂	大塩平八郎の乱	12月11日～3月16日
7	メディアと流行	普選による最初の大阪市会議員選挙	4月10日～6月24日
7	メディアと流行	池原鹿之助立候補趣旨書ほか	6月26日～
7	産業の展開	滝野盛進堂焼印押止簿ほか	6月26日～
7	上方芸能の展開	錦影絵	5月6日～6月24日
7	上方芸能の展開	初代中村鴈治郎の紙治	6月26日～
7	美術工芸の諸相	春夏の刀装具	5月1日～8月19日
7	美術工芸の諸相	藪 明山と『大阪薩摩』	10月2日～2月3日
7	美術工芸の諸相	近代大阪で作られた箏	11月27日～3月16日
7	美術工芸の諸相	大阪月山派の展開	10月2日～2月3日
7	美術工芸の諸相	藪 明山と『大阪薩摩』	2月5日～
7	美術工芸の諸相	押絵雛、雛百種、雛図（色紙）	2月5日～3月30日
7	都市の民間信仰	動物小絵馬	2月26日～
7	引札と広告	引札と駅弁掛紙	7月31日～2月24日
7	鴻池家の生活用具	鴻池家のガラス器	6月26日～
7	映像コーナー	映像「守れ我等が大空」	7月10日～

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2月29日から臨時休館。休館中の展示更新についても記載した。

特集展示

8階の特集展示室では、常設展の内容を掘り下げたものや季節に合わせた企画などを順次開催している。

●なにわ人物誌 三好木屑

会 期：平成31年3月20日～令和元年5月6日
出 品 数：53件63点（パネル展示を含む）
担 当：中野朋子

三好木屑（1874～1942）は近代大阪を代表する指物師のひとり、武者小路千家官休庵家元・愈好斎聴松、大阪の両替商・平瀬露香らの指導のもと本業である指物の製作に勤むほかに「余技」として多彩な漆芸作品の製作を行った。本展では、木屑の製作した作品53件によって、木屑の人物像や茶の湯をめぐる創作活動について紹介した。期間中の3月30日および4月29日には展示解説を実施した。

●新収品お披露目展

会 期：令和元年5月8日～7月8日
出 品 数：約20件
担 当：澤井浩一

当館では開館以来、郷土大阪を中心とする地域の歴史と文化について広く市民に紹介し、理解を深めることを事業運営の基本方針としている。この基本方針に沿った資料の収集は博物館活動の根幹でもあり、毎年、市民の皆様からご寄贈いただいたさまざまな資料を保管し、研究や展示等に活用を図っている。本展では、近年新たに館蔵品となった数多くの寄贈品のなかから未公開のものを中心に、約20件を紹介した。おもな展示資料は、北の大火絵葉書（大門康郎氏寄贈）、「花見どき」青木豊園筆カ（坂本宏子氏寄贈）、麒麟図刺繍名古屋帯（三露榮一氏寄贈）など。

●「漣（さざなみ）」を生んだ風景—近代水都大阪を描く—

会 期：令和元年7月10日～8月19日
出 品 数：32点
担 当：大澤研一、阿部文和
共 催：大阪中之島美術館準備室

2019年は淀川改良工事が竣工し、新淀川が誕生してから110年目にあたり、近年は淀川が人々に安らぎを与える空間・景観として注目度を高めている。本展は地方独立行政法人大阪市博物館機構誕生を機に、大阪歴史博物館と大阪中之島美術館準備室が所蔵する重要文化財「漣」（福田平八郎筆）などの絵画作品を通し、近代大阪の人々が見つめてきた水辺の景観を振り返り、これからの大阪における水辺空間の意味合いを考えることを目的に開催した。関連行事として展示解説を7月20日、8月10日に実施した。

●博学連携展 vol.1 商都大阪の文化力 大阪商業大学 ×大阪歴史博物館

会 期：令和元年8月21日～10月14日
出 品 数：47件110点（パネル展示を含む）
主 催：大阪歴史博物館、大阪商業大学
協 力：かんさい・大学ミュージアム連携実行委員会

担 当：中野朋子

大阪市内および近隣地域には多くの大学があり、それぞれに「知」に関わる資料などを収集し研究を行うとともに、附属の博物館を開設し展示活動等を通じて地域への知の還元に努めている。本展では、大阪ゆかりの大学と当館との共同展示である「博学連携展」として開学70周年を迎えた大阪商業大学とともに、「商都」大阪の繁栄を支えた「蔵屋敷」を中心に繰りひろげられた、人・もの・地域の連携と展開について、当館および大阪商業大学の所蔵品を通じて紹介した。

関連行事として、8月31日に記念講演「商都大阪の経済基盤—蔵屋敷を中心に—」加藤慶一郎氏（大阪商業大学教授、商業史博物館館長）、9月16日に関連講座「商都大阪の遊びと文化」高橋浩徳氏（大阪商業大学アミューズメント産業研究所研究員）、明尾圭造氏（大阪商業大学准教授、商業史博物館首席学芸員）、9月28日にかんさい・大学ミュージアム連携実行委員会との共催で、公開シンポジウム「博学連携事業の展望と課題—多様な所蔵資料とその可能性—」（平成31年度文化庁地域と共働した博物館創造活動支援事業「ようこそ大学ミュージアムへ—つなぐ・つなげる・つながる—」）を開催した。また、8月24日には担当学芸員と明尾圭造氏による展示解説を実施した。

●新発見！なにわの考古学2019

会 期：令和元年10月16日～令和2年1月6日
出 品 数：約300点
担 当：寺井 誠
共 催：（一財）大阪市文化財協会

平成30年度に大阪文化財研究所（現大阪市文化財協会）・大阪市教育委員会が行った大阪市内の主要な遺跡発掘調査を紹介した。弥生時代中期の櫓（そり）形木製品や、古墳時代中期の顔の装飾がついた須恵器椀（いずれも旭区高殿7丁目所在遺跡）、大阪の近代工業を支えた硫酸瓶など化学薬品用陶磁器類（北区中之島蔵屋敷跡）といった興味深い成果を含め、約300点の出土資料を発掘現場の写真パネルとともに展示した。関連行事として講演会「大阪の歴史を掘る2019」を12月14日に開催し、展示解説を10月19日、11月23日、12月21日に実施した。

●押絵「西国三十三所観音霊験記」と生人形

会 期：令和2年1月8日～3月2日
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2月29日から臨時休館により公開中止
出 品 数：37点
担 当：澤井浩一
共 催：NPOくまもと文化財プロジェクト
特別協力：益城町教育委員会
後 援：熊本県教育委員会
協 力：日本画工房 浮島館

明治時代に、熊本出身の生人形師、松本喜三郎が東京・浅草や大阪・千日前などで興行した代表作「西国三十三所観音霊験記」は、社会的にも大きな影響を与えた見世物興行である。この生人形の意匠をもとに制作さ

れた押絵作品群は、明治42年（1909）～大正2年（1913）にかけて、熊本の3人の女性（背景画を中島千壽、人物・背景下絵を小川マス、押絵を深浦春）によって制作され、作品は20年にわたり大阪を含む全国各地の寺院、百貨店、呉服店等で展示公開された。戦後、押絵は熊本市内の観音絵馬堂に奉納され、平成26年度に文化財として受け入れた熊本県益城町により修復され、修復中の熊本地震でも奇跡的に破損を免れた。

本展では、益城町所蔵の押絵作品群、下絵、館蔵の生人形池之坊などの関係資料を合わせて展示し、押絵の修復作業についても紹介した。関連行事として、展示解説を1月11日、2月9日に実施し、2月9日には益城町教育委員会学芸員の堤英介氏からも作品寄贈の経緯を説明いただいた。

●発掘成果から考える 近世都市「おおさか」の食文化

会 期：令和2年3月4日～5月11日
※新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休館のため公開中止

出 品 数：200件

担 当：安岡早穂

共 催：（一財）大阪市文化財協会

本展では近世の「食」の面から大阪市内の発掘調査成果を解釈した。調理具・食膳具や食材などの考古遺物と、遺跡立地のそれぞれの性格とを考えあわせることで都市大坂に住む人々の食生活の特徴を示し、現在にも連なる食文化への理解を深める機会となることを目指した。特に陶磁器は大坂の好みや流通が反映されており、豊臣期から徳川期の初めにかけての桃山陶器の隆盛や肥前陶器の消費、肥前磁器の早い時期の使用とその後の普及、関西周辺で生産された調理具の流通など都市大坂の特徴が出ていることを示した。また、大阪市指定文化財である魚市場跡出土木簡を陳列した。

本展は予定通り企画・陳列を実施したが、臨時休館のため会期すべての日程の公開を中止した。関連行事として展示解説を3月21日に予定していたが、臨時休館のため実施しなかった。

特別展

●第67回特別展

～国芳、広重、国貞、豊国、英泉…江戸・明治の浮世絵師たちが描く～ニャンダフル 浮世絵ねこの世界展

会 期：令和元年7月27日～7月8日

開館日数：39日（うち8月15日は台風のため臨時休館）

入場者数：30,012人

出 品 数：153点、大阪特設コーナー8件25点

図 録：変形判（170×240mm）、188頁

担 当：安岡早穂、村元健一、大澤研一

主 催：大阪歴史博物館、NHKプラネット近畿

後 援：NHK大阪放送局

監 修：稲垣進一（国際浮世絵学会常任理事）

企画協力：ステップ・イースト

江戸・明治時代の猫が描かれた浮世絵を、以下の7章に分けて展示した。写実性からみた「猫のプロフィール」（第1章）、猫好きの歌川国芳によって面白おかしく描かれた「お茶目な猫たち」（第2章）、女性や子どもと共に浮世絵の人気の画題となった「国芳と猫と美人たち」（第3章）、「猫は美人が好き」（第4章）、「猫は子どもの友だち」（第5章）、擬人化された猫で当時の文化風俗を描くおもちゃ絵「楽しくユカイな猫の国」（第6章）、夜に音もなく動きまわる不気味さや情念深さといった猫へのイメージが表れた「化け猫ものがたり」（第7章）。各浮世絵師の作風の個性を楽しむとともに、人が猫に持っていたイメージや、人々と猫との関わり方の歴史への興味を喚起する展示を目指した。

また大阪特設コーナーを設け、大阪・関西にゆかりのある猫関連資料を展示することで、本館所蔵・保管資料を活用し、地域に還元することを試みた。同コーナーでは、中世の猫の取り扱いに関する取り決めを記した文献資料や初辰猫などの民俗資料、発掘調査で出土した土人形などを展示し、観覧者の関心を集めることができた。

◇おもな展示資料

- ・歌川国芳 「たとゑ尽の内」大判錦絵三枚続 個人蔵
- ・月岡芳年 「古今比売鑑 薄雲」大判錦絵 個人蔵
- ・歌川芳藤 「五拾三次之内猫之怪」大判錦絵 個人蔵

◇関連イベント

- ・プレ講座 6月29日 村元健一、7月6日 大澤研一、7月13日 安岡早穂
- ・講演会「浮世絵にみるネコの生態学」山根明弘氏（西南学院大学人間科学部教授） 8月3日
- ・「夏休みワークショップ」
うちわづくり、塗り絵、切り絵、折り紙 8月12・13日
- ・「大坂のまちでねこさがし」
常設展示9階「船場の町並み」模型で常時開催
- ・ポスタープレゼント 8月13～15日
- ・ねこふおと割 自慢のねこ写真をご提示いただいた方は、特別展観覧料（常設展との共通券を含む）を団体割引料金とする。7月27～29日、8月2・8・12・21～26・28・29日、9月2日



●第68回特別展

勝矢コレクション刀装具受贈記念 決定版・刀装具鑑賞入門

会 期：令和元年10月5日～12月1日

開館日数：50日

入場者数：27,058名

出 品 数：約220点

図 録：A4判、184頁

担 当：内藤直子、李 陽浩、豆谷浩之

主 催：大阪歴史博物館



勝矢俊一氏（1895～1980）は昭和を代表する刀装具コレクター・刀装具研究者である。没後、そのコレクションは遺族の手に分かれたが、平成30年度に俊一氏の次男で大阪府在住の勝矢寛雄氏より、所蔵の刀装具類927点が当館に一括寄贈された。本展はこの受贈を記念して行ったもので、今回の寄贈品の中から選りすぐりの約200点を展示した。かつて俊一氏はこのコレクションを用いて、自宅を訪れた初学の徒に鑑賞を説いていたと伝えられる。刀装具の魅力を伝え、数多くの鑑賞者を世に送り出した旧蔵者・勝矢俊一氏を範とし、初心者向けに広く刀装具の魅力を伝える企画とした。

なお同時開催として、元日本根付研究会会長・渡邊正憲氏寄贈品のお披露目となる「受贈記念・渡邊正憲 根付（ねつけ）コレクション」と、勝矢俊一氏と生前交流のあった大阪市無形文化財保持者・阪井俊政氏の作品を紹介する「阪井俊政の刀装具」をコーナー展示で併催した。

◇おもな展示資料

- ・牡丹獅子図鐔 銘 増田明珍紀 宗胤鍛煉之／天保四年八月日 伊藤正常彫之
- ・鯉図小柄 銘 東嶽子 石黒政常（花押）
- ・関羽留守模様図小柄 銘 後藤光美（花押）
- ・煮干図三所物 銘（小柄・筭）乙柳軒味墨（花押）

◇関連イベント

- ・学芸員によるギャラリートーク 10月25日
- ・学芸員によるスライドトーク 11月9日
- ・講演会「明治・大正期の西欧における刀装具コレクションについて」南明日香氏（相模女子大学学芸学部教授）11月17日

●第69回特別展

猿描き狙仙三兄弟 鶏の若冲、カエルの奉時も

会 期：令和2年2月26日～4月5日

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2月29日から臨時休館

開館日数：35日（当初予定）／3日（変更後）

入場者数：473人

出 品 数：108件

図 録：A4変形判、200頁

担 当：岩佐伸一、杉本厚典、澤井浩一

主 催：猿描き狙仙三兄弟展実行委員会（大阪歴史博物館、NHKプラネット近畿）

後 援：NHK大阪放送局

協 賛：ニューカラー写真印刷株式会社



この展覧会は、江戸時代後期の大阪にあって猿を描いて名を成した森狙仙とその二人の兄周峰・陽信の三人の画業を再認識いただくために企画した。狙仙とその兄弟たちは、後世に森派と呼ばれる画派の原点となった人物であり、その流れは明治初期に至るまで続き、大阪の絵画界において主要な一角を占めた。

本展では、序章において狙仙らの学んだ狩野派や中国絵画を示し、第1章では陽信の大画面作品、第2章では周峰の多彩な画題による作品、第3章では狙仙の動物絵画を中心に、第4章では狙仙の次世代の作品、終章では猿描き狙仙にちなみ狙仙と同時代に一芸を以って名を成した若冲や岸駒らの作品を展示し、狙仙三兄弟の画業はもとよりその子孫や同時代の絵画状況を提示した。

◇おもな展示資料

- ・宇治川先陣争図 櫛橋正盈筆 北島古美術研究所蔵
- ・諫鼓鶏図 森陽信筆 個人蔵
- ・関羽図 森周峰筆 高砂神社蔵
- ・老樞双猿図 森狙仙筆 個人蔵
- ・蝦蟇図 松本奉時筆 個人蔵
- ・拾得および鶏図 伊藤若冲筆 本山建仁寺塔頭禅居庵蔵

◇関連イベント

※新型コロナウイルス感染症対策・臨時休館のため一部を除き中止

- ・講演会「大坂森派の写生画－円山応挙絵画の展開」冷泉為人氏（公益財団法人冷泉家時雨亭文庫理事長、京都美術工芸大学学長）令和2年3月8日
- ・ギャラリートーク 令和2年2月28日、3月14日、3月22日
- ・サルの日・トリの日割 会期中の下記の日（「申（さる）の日」「酉（とり）の日」）に、ご自慢の動物グッズ（雑貨や写真など）をご持参・ご提示いただいた方は、特別展観覧料（常設展との共通券を含む）を団体割引料金とする。申の日3月6日・18日・30日、酉の日3月7日・19日
- ・動物おみくじ 特別展に有料でご入場いただいた方に、会期中毎日先着100名様限定（無料）で、動物ゆかりのおみくじを引いていただいた。（2月26～28日実施）

資料収集

平成31（令和元）年度は、寄贈によって新たに63件274点の館蔵品を加えた。内容は一覧の通りである。これらの収集資料にあたっては、外部に依頼した委員による資料収集委員会を開催して収集審査を行った。

●平成31（令和元）年度の収蔵資料点数

部門	寄贈	購入	移管	合計
歴史	7	0	0	7
美術	54	0	0	54
考古	65	0	0	65
民俗	0	0	0	0
芸能	0	0	0	0
建築	148	0	0	148
	274	0	0	274

●館蔵品総点数（令和2年3月31日現在）

部門	寄贈	購入	移管	合計
歴史	81,419	9,143	86	90,648
美術	9,148	1,648	3	10,799
考古	7,090	4,765	6,178	18,033
民俗	4,837	2,485	2	7,324
芸能	10,735	1,029	3	11,767
建築	6,120	0	27	6,147
	119,349	19,070	6,299	144,718

燻蒸

博物館の新規受入資料に対する各種害虫及びカビの駆除のために、燻蒸庫燻蒸を8月、12月、2月の計3回実施した。また、7月から8月に収蔵資料の保全のために、収蔵庫内にて生物（歩行・飛翔虫）の生息状況並びに空中浮遊・付着菌類の捕獲・採集調査と目視調査を実施した。

大阪歴史博物館資料収集方針

大阪は、日本の歴史のなかで、古代から現代にいたるまで重要な役割を果たしてきた都市である。難波宮の宮殿が営まれた古代、大坂本願寺の寺内町がつくられた中世、天下の台所として繁栄した近世、そして工業都市として発展した近代・現代と多様な展開をみせた。

大阪歴史博物館は、このような「都市おおさか」の歴史を紹介する博物館であり、郷土大阪を中心とする地域の歴史と文化について広く市民に紹介し、理解を深めることを事業運営の基本方針としている。こうした趣旨に沿った資料収集は、失われゆく資料の保存・研究の観点を含めて重要なものである。よって、以下の条項に基づき博物館資料を収集する。

記

1. 難波宮とその研究史を理解する上で重要な資料を収集する。
2. 大阪の歴史と文化の発展を理解する上で重要な有形文化財、およびその理解を高める比較資料を収集する。
3. 大阪にとって芸術上価値の高い資料、およびその理解を高める比較資料を収集する。
4. 大阪に暮らす人々の生活の推移を理解するために必要な有形・無形文化財を収集する。
5. 大阪の景観、人物、無形文化財等の写真、映像などの資料を収集する。

新収館蔵資料紹介

「花鳥図存星盆」

渡邊實氏寄贈

存星は存清とも書かれる漆芸技法で、漆模様を描き、輪郭などを線彫り、毛彫りしたもの。この盆は牡丹や百合の花々の中に一羽の尾長鳥を色漆で表した華麗な作。作品の地模様中に隠し銘で「黒斎製」とあり、讃岐漆芸の名工・玉楮象谷の弟、藤川黒斎（文綺堂）（1816～1885）の作と分かる点も貴重である。



新収館蔵資料一覧

寄贈

●歴史

◇渡邊實氏寄贈資料

ウイスキー徳利	1点
ウイスキー徳利	1点
ウイスキー猪口	5点

●美術

◇渡邊正憲氏寄贈資料

木彫根付「親子虎」銘 岷江	1点
木彫根付「関羽」銘 月生	1点
木彫根付「韃靼人射手」無銘	1点
木彫根付「唐貴人」無銘	1点
海象牙彫柳左根付「月に木蓮図」無銘	1点

◇渡邊實氏寄贈資料

手組末広籠	1口
煤竹提梁花籠 田辺竹雲斎作	1口
葡萄葉盆 中西雪亭作	1面
蓮葉香盆 中西雪亭作	1面
葡萄葉香盆 中西雪亭作	1面
葡萄葉香盆 中西雪亭作	1面
一枚葉盆 中西雪亭作	1面
鐔透硯屏 中西雪亭作	1面
寿老・観音像 中西雪亭作	1対
恵比寿像 中西雪亭作	1体
達磨像 中西雪亭作	1体
霊芝図馬蹄形香盆 中西雪亭・斎藤銀錢合作	1面
朱漆輪花盆 島野三秋作	1面
螺鈿蝶花図香盆 島野三秋作	1面
飛魚躍進図盆 島野三秋作	1面
宝珠香合 島野三秋作	1合
四君子蒔絵硯箱 島野三秋作	1合
石榴図盆 島野三秋作	2枚
漆絵「山水図」 島野三秋筆	1枚
漆絵「山水図色紙」	1枚
漆絵「干柿図短冊」 島野三秋筆	1枚
漆絵「浜辺千鳥図」 島野三秋筆	1点
漆絵「牡丹図」 島野三秋筆	1点
漆絵「岸壁千鳥図」 島野三秋筆	1点
枇杷地紋釜 角谷一圭作	1口
七宝唐草象嵌釜 角谷一圭作	1組
蔦の葉図棗 川端近左作	1合
福祿寿銘々皿（尚美堂製）	5枚
菊皿（尚美堂製）	1枚

蜂桃園堆黒香合 鎌田稼堂作	1合
貝図堆黒香合	1合
花鳥図存星盆 藤川黒斎作	1面
四天王寺獅子狩文錦（龍村織物製）	1面
赤地鴛鴦唐草文錦（龍村織物製）	1面
織寶会昭和己亥名物裂（龍村織物製）	1帖
唐花双鳥長斑錦（龍村織物製）	1巻
葡萄唐草文錦（龍村織物製）	1巻
七条刺納樹皮色袈裟写裂座布団（龍村織物製）	2枚
コプト裂	2点
コプト裂	2面
梅樹図菓子鉢	1口

●考古

◇濱田かづゑ氏寄贈資料

卒業アルバム（東京高等師範学校）	1冊
大阪商科大学予科昭和拾五年度修了生記念アルバム	1冊
書簡（広瀬栄一→山根徳太郎）	33点
絵葉書（山根徳太郎→山根百合子）	1点
記念写真	3点
印章	25点

◇今西陽子氏寄贈資料

延暦文官参朝繪圖	1巻
----------	----

●建築

◇渡邊實氏寄贈資料

建築申請書	2冊
玄関ドアノッカー	1点
照明器具（玄関）	1点
照明器具（階段）	1点
照明器具（居間兼食堂）	1点

◇木村弓子氏寄贈資料

葉書	31枚
絵葉書	111枚

館蔵品の修復

平成31（令和元）年度に修復した資料は次の通りである（1件1点）。

名称 絵画（観瀑図 森周峰筆）

数量 1点

修復概要 虫損および折れ個所の補修

資料のデータ整備・特別観覧・貸出し

データ整備

●マイクロフィルム撮影

本年度は下記の館蔵資料について撮影を行った。

- (1) マイクロフィルム撮影
 - ・熊田家文書のうち「朝鮮人来朝一件」ほか456コマ分を撮影し、紙焼き製本およびデジタル化を行い、資料の活用を図った。
- (2) 写真撮影
 - ・42点（美術工芸資料36点、歴史資料6点）
- (3) デジタルカメラ撮影
 - ・「大阪薬学専門学校学則」ほか2,187コマ分を撮影し、紙焼き製本を行い、資料の活用を図った。

●図書を受入（令和2年3月31日現在）

本年度は新たに4,113件の登録を行った。内訳は、国内外の関係機関・個人からの寄贈3,749件、特別観覧献本55件、移管38件、購入217件、自主刊行物の登録54件であった。蔵書は当館2階の学習情報センター「なにわ歴史塾」において閲覧サービスを行っている。

特別観覧

本年度は撮影20件（86点）、実測6件（11点）、閲覧17件（95点）、印画2件（2点）、掲載・掲出154件（395点）、放映53件（117点）、デジタルオンデマンド21件（56点）の計273件（762点）の特別観覧があった。

※件数・点数ともに重複を含む。

館蔵資料の貸出し 平成31（令和元）年度に他機関に貸出した資料数は下に掲げた表の通りである（22件163点）

申請者	数	展覧会名称	貸出期間
大阪市旭区役所市民協働課	19	旭区民センター常設展示	平成31年4月1日～令和3年3月31日
香川県立ミュージアム	5	特別展「祭礼百態－香川・瀬戸内の『風流』」	令和元年7月15日～令和元年9月30日
福島県立博物館	22	企画展「あにまらず ANIMAL×Zoo －どうぶつの考古学－」	令和元年8月20日～令和元年12月10日
一般財団法人たじみ・笠原タイル館	1	受贈記念小企画展「今井兼次 不死鳥のモザイク」	令和元年8月27日～令和2年1月23日
兵庫県立考古博物館	1	特別展「埴輪の世界－埴輪から古墳を読みとく－」	令和元年9月17日～令和元年12月12日
野洲市歴史民俗博物館	2	秋季企画展「人と魚の歴史学」	令和元年9月17日～令和元年12月18日
大阪城天守閣	1	「特別展 豊臣外交」	令和元年9月20日～令和元年12月10日
栃木県立美術館	4	企画展「菊川京三の仕事 －『國華』に綴られた日本美術史」	令和元年10月1日～令和2年1月10日
公益財団法人広島市文化財団	11	企画展「江戸屋敷・大坂蔵屋敷」	令和元年10月3日～令和元年12月13日
福井市立郷土歴史博物館	1	特別展「将軍家茂と皇女和宮 －行列が彩った二人の幕末－」	令和元年10月5日～令和元年12月11日
吹田市立博物館	17	秋季特別展「大塩平八郎展 四海困窮いたし候はば…」	令和元年10月8日～令和元年12月13日
細見美術館	21	「琳派展21 没後200年 中村芳中」	令和元年10月10日～令和元年12月27日
京都文化博物館	5	総合展示「道具と材料の職人譜」	令和元年10月24日～令和元年12月25日
帝塚山大学附属博物館	16	企画展示「絵馬 －届けよ祈り、あまたの想いを絵馬に込めて－」	令和元年9月25日～令和元年11月6日
公益財団法人八尾市文化財調査研究会	1	特別展「由義寺 発見！－国史跡指定記念－」	令和元年9月26日～令和元年12月13日
大阪府近つ飛鳥博物館	4	秋季企画展「ヤマト王権とその拠点 －政治拠点と経済拠点－」	令和元年9月27日～令和元年12月20日
高月観音の里歴史民俗資料館	7	企画展「関西にみる朝鮮通信使の足跡」	令和元年10月15日～令和元年12月20日
佐野美術館	1	特別展「名刀への道」	令和元年12月6日～令和2年2月18日
姫路科学館	1	企画展「はりまの星・日本の星」	令和元年12月18日～令和2年1月22日
文化庁	18	文化審議会での調査	令和2年1月16日～令和2年6月9日

申請者	数	展覧会名称	貸出期間
京都文化博物館	2	特別展「京都 祇園祭 - 町衆の情熱・山鉦の風流 -」(開催中止)	令和2年3月6日～令和2年5月26日
京都市美術館	3	京都市京セラ美術館開館記念展 「京都の美術 250年の夢」	令和2年3月9日～令和2年6月17日

教育普及事業

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2月22日以降の教育普及事業を中止し、2月29日から臨時休館となった。

講座・見学会

●なにわ歴博講座

◇第1期「古代と近代-大阪・東アジア-」

11月15日「百舌鳥・古市古墳群の時代の中国皇帝陵」
村元健一 77名

11月22日「古代建築と実物大復元」李 陽浩 54名

11月29日「近代大阪の庶民を求めて」船越幹央(大阪市博物館機構) 61名

◇第2期「大阪とその近郊」

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

3月6日「近世大坂を彩る名所たち-その姿とうつりかわり-」大澤研一

3月13日「建築の儀式-『匠家故実録』を例に-」
阿部文和

3月20日「自然との共存-環境民俗学の視座から-」
俵 和馬

●館長講演会

6月22日「後期難波宮の内実」栄原永遠男 182名

●「なにわの日」講演会

7月28日「前期難波宮の歴史的位罫」積山 洋(大阪市文化財協会)、「難波宮の記憶-難波宮はいかに忘れ去られ、いかに思い出されたか-」豆谷浩之 206名

●金曜歴史講座(大阪市文化財協会と共催)

10月18日「上町台地周辺の谷を巡って-制約・利用・克服-」平田洋司(大阪市文化財協会) 137名

10月25日「最先端技術で元寇の沈没船を保存する-新たな発想と科学で守る文化財」伊藤幸司(大阪市文化財協会) 101名

11月1日「仁徳天皇条「難波堀江」の新研究」南 秀雄(大阪市文化財協会) 164名

●大阪府教職員互助組合歴史セミナー(大阪府教職員互助組合と共催)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

2月29日「生人形と見世物興行-松本喜三郎の「西国三十三所観音霊験記」を中心に-」澤井浩一

●同志社女子大学講座(同志社女子大学と共催)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

「人に寄り添う心~難波と京における歩み~」

3月7日「近代日本と看護」岡山寧子氏(同志社女子大学看護学部看護学科教授)、「古代難波における福

祉と薬劑」栄原永遠男、博物館案内ツアー 岩佐伸一、松本百合子

●漢文講座「史料でみる中国皇帝陵」

①1月11日「前半：漢文の基礎」、「後半：中国皇帝陵について」村元健一 56名

②1月18日「『史記』秦始皇本紀と始皇帝陵」
村元健一 54名

③1月25日「『三国志』武帝・文帝紀と魏の陵墓」
村元健一 56名

●考古学入門講座なにわ考古学散歩「古墳と都城 -難波・藤原・平城-」

①4月13日「難波遷都と開発の跡を歩く」

寺井 誠・李 陽浩 36名

②4月20日「藤原宮・京と古墳-朱雀大路に埋められた横穴墓-」寺井 誠・村元健一・阿部文和 35名

③4月27日「平城宮・京と佐紀古墳群-巨大古墳の破壊と再利用-」寺井 誠・松尾信裕・俵 和馬 36名

●なにわ歴博寄席2020(落語ファクトリーと共催)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため延期

3月21日 落語「開口一番」月亭遊真、「たいこ腹」笑福亭呂好、「たち切れ線香」桂三風
ミニ講座「大阪の花街」澤井浩一

●Come to Life! 大阪の映像資源を再発見(大阪中之島美術館準備室、映像発掘プロジェクト他と共催)

10月26日 特別レクチャー「映像資源の新たな価値発見のために」 24名

進行 松山ひとみ(大阪中之島美術館準備室)

1 「沖縄の8mm映画~多様な利活用を創造する試み」

講師 真喜屋力氏(沖縄アーカイブ研究所)

2 「在りし日の鶴山とコウノトリ-映像の背景と活用の可能性-」

講師 俵 和馬

3 「神戸映画資料館の活動とJISYU(自主映画アーカイブ上映)」

講師 田中晋平氏(映画保存ネットワーク)

座談会「大阪の都市交通インフラ整備とメディア」

進行 船越幹央

登壇 小倉徹也(大阪市教育委員会)、松本章伸氏(テレビドキュメンタリーディレクター)

10月27日 蔵出し映像 上映会 34名

進行 松山ひとみ、船越幹央

ピアノ 鳥飼りょう氏(楽士)

●2019ゴールデンウィーク特別企画「体験!博物館」

5月3日 特設ハンズオン!大極殿の組物体験 55名

5月5日 初心者のための能楽ワークショップ(公益

社団法人能楽協会と共催) 71名
5月6日 創って映そう、錦影絵。(協力:錦影繪池田組) 62名

特別展・特集展示等関連の講演会・展示解説

◇特別展「ニャンダフル 浮世絵ねこの世界展」

- プレ講座
- ① 6月29日「古代中国のネコとヒト」村元健一 33名
- ② 7月6日「都市のなかのネコ～近世の京都・大坂を中心に～」大澤研一 30名
- ③ 7月13日「姿を写し取る～ネコの土人形～」安岡早穂 15名
- 講演会「浮世絵にみるネコの生態学」山根明弘氏(西南学院大学人間科学部教授) 8月3日 131名
- 「夏休みワークショップ」①オリジナルうちわを作ろう、ぬり絵で遊ぼう ②切り絵で遊んでみよう ③折り紙でねこをつくろう 8月12日・13日 91名

◇特別展「決定版・刀装具鑑賞入門」

- 展示解説 10月25日 60名
- スライドトーク 11月9日 56名
- 講演会「明治・大正期の西欧における刀装具コレクションについて」南明日香氏(相模女子大学学芸学部教授) 11月17日 47名

◇特別展「猿描き狙仙三兄弟 -鶏の若冲、カエルの奉時も」

新型コロナウイルス感染症対策・臨時休館のため下記の事業を中止した。

- 講演会「大坂森派の写生画-円山応挙絵画の展開」冷泉為人氏(公益財団法人冷泉家時雨亭文庫理事長、京都美術工芸大学学長) 3月8日
- 学芸員によるギャラリートーク 2月28日、3月14日、3月22日

◇特集展示「なにわ人物誌 三好木屑」(平成30年度から)

- 展示解説 4月29日 21名

◇特集展示「漣」を生んだ風景 -近代水都大阪を描く-

- 展示解説 7月20日 12名、8月10日 17名

◇特集展示「博学連携展 vol.1 商都大阪の文化力 大阪商業大学×大阪歴史博物館」

- 記念講演「商都大阪の経済基盤-蔵屋敷を中心に-」加藤慶一郎氏(大阪商業大学教授、商業史博物館館長) 8月31日 145名
- 関連講座「商都大阪の遊びと文化」9月16日 125名
「拳の文化史」高橋浩徳氏(大阪商業大学アミューズメント産業研究所研究員)
「浪華大坂の文化事情」明尾圭造氏(大阪商業大学准教授、商業史博物館主席学芸員)
- 公開シンポジウム「博学連携事業の展望と課題-多様な所蔵資料とその可能性-」(平成31年度文化庁地域と共働した博物館創造活動支援事業「ようこそ大学ミュージアムへ-つなぐ・つなげる・つながる-」) 9月28日 77名
開会挨拶:片山隆男氏(大阪商業大学副学長)
基調講演「情報の可視化としての展示づくり-愛媛大学ミュージアムでの事例をもとに-」
徳田明仁氏(愛媛大学ミュージアム准教授、同学広

報室副室長)

シンポジウム「博学連携事業の展望と課題」

松浦 清氏(大阪工業大学教授、常翔歴史館館長)
明尾圭造氏(大阪商業大学准教授、商業史博物館主席学芸員)

橋爪節也氏(大阪大学総合学術博物館教授)

米田文孝氏(関西大学文学部教授、同博物館館長)
閉会挨拶:大澤研一(大阪歴史博物館副館長兼学芸課長)

- 展示解説 8月24日 23名

◇特集展示「新発見!なにわの考古学2019」

- 講演会「大阪の歴史を掘る2019」12月14日 166名
「平成30年度大阪市内の発掘調査について」櫻田小百合氏(大阪市教育委員会)
「長岡京遷都、そして平安京への道」國下多美樹氏(龍谷大学文学部教授)
- 展示解説 10月19日 22名、11月23日 14名、12月21日 15名

◇特集展示「西国三十三所観音霊験記」

- 展示解説 1月11日 20名、2月9日 25名

●展示解説

- 特別展に伴う展示解説・みどころ解説計2回、参加者合計116名
- 特集展示に伴う展示解説 計9回、参加者合計169名
- 常設展示に伴う展示解説 計148回、参加者合計1,067名

“なにわ歴博” わくわく子ども教室事業

本事業は主に小学生・中学生を対象とし、土日祝日を中心に実施した。

①手作りおもちゃで遊ぼう

毎月第1・3土曜日(1月は第3のみ実施、3月は新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休館のため中止)

全21回、計1,527名

②昔の瓦の拓本体験

4~9月第2土曜日 全6回、計147名

③和同開珎の拓本でしおりをつくろう

11~2月第2土曜日 全4回、計60名

なお、10月12日は台風19号接近で暴風警報が発令されたため、3月9日は新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休館のため中止した。

④綿くり・糸つむぎ体験 9月29日 65名

⑤夏休みクラフト教室「近代建築ダンボールクラフト体験」7月27・28日 全2回、計21名

⑥考古学体験教室

8月9・10・11日 全3回、計46名

⑦凧づくりと凧あげ 1月5日 18名

難波宮遺跡探訪

当館の地下に保存されている難波宮の遺跡を1日6回、定員40名で学芸員・ボランティアによるガイドツアーを実施している。平成31(令和元)年度は合計4,582名の参加があった。また、開館時の12時30分~13時の間に5世紀の復元倉庫を公開しており、合計10,999名が見

学した。

学習情報センター「なにわ歴史塾」

当館2階の無料空間内にある。映像ソフト約100件の閲覧、「昔の大阪」写真ライブラリー約7,000枚の閲覧、開架図書約6,000冊の閲覧、常駐する学芸員による学習相談に応じた。検索端末を利用した館蔵図書検索や大阪市内博物館・美術館ホームページ閲覧などのコーナーも用意し、市民の歴史学習を支援するとともに、利用案内リーフレットの作成、「なにわ歴史塾ブログ」・掲示板や新着図書コーナー・わくわく子ども教室コーナーの随時更新など、利用推進を図った。また今年度も司書を中心に、特集展示開催などに合わせて、「平成をふり返る」(4月3日～5月20日)、「歴博の建築史研究」(5月22日～7月1日)、「夏休み子ども特集」(7月3日～9月2日)、「大富豪」(9月4日～10月21日)、「大阪検定2019」(10月23日～12月9日)、「冬の特集」(12月11日～3月30日 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2月29日から臨時休館)の6回の特集を企画し、関連書籍を配架した。平成31(令和元)年度の入室者数は23,708名、書庫出納件数は189件、複写利用件数は452件であった。

学校連携事業

学校教育との連携をはかるために、学校における進路学習のための職場体験学習を受け入れた。また、大学からの博物館実習・見学実習の受け入れを行った。

●学校職員の研修の受け入れ

大阪市立の小学校・高等学校の教員研修を実施した。

7月27・28日 大阪市立南高等学校教員研修1名

8月8・9日 大阪市立玉造小学校教員研修1名

●学校団体(小中学校および高等学校)への教育支援および職業体験の受け入れ

6月6・7日 大阪市立桜宮中学校2名 職業体験

6月12・13日 大阪市立天満中学校2名 職業体験

6月14日 滋賀県大津市立真野中学校12名 職場訪問

7月8日 大阪市立蒲生中学校2名 職業体験

7月10日 大阪府立高津高等学校6名 職場訪問

8月1日 開明中学校14名 学芸員講話・見学

9月26日 東京都開智日本橋学園中学校6名 職場訪問

11月7・8日 大阪市立東中学校2名 職業体験

11月14・15日 大阪市立下福島中学校1名 職業体験

11月14・15日 大阪市立咲くやこの花中学校2名 職業体験

11月15日 大阪市立天満中学校 職業講話(派遣)

●考古学体験教室

(一財)大阪市文化財協会の協力を得て、「考古学体験教室」を開催した。当館を会場とし、「瓦の拓本」「土器の接合」「AR難波宮を使った遺跡見学」を行った。実施にあたっては、小学校高学年を対象とし、希望する学校の調整には大阪市小学校社会科研究会の協力を得た。今年度は、11月25・27～29・12月2日の5日間で、16校884名の児童を受け入れた。

●博物館実習の受け入れ

博物館法および博物館法施行規則に基づく学芸員資格取得のための博物館実習は10大学53名を受け入れた。

◇8月19～23日 大阪大学8名、大阪市立大学8名、奈良大学4名、同志社大学2名、関西学院大学2名、京都橘大学1名、立命館大学1名

◇8月26～30日 大阪大学11名、大阪市立大学12名、大谷大学1名、甲南女子大学1名、佛教大学2名

◇見学実習は、龍谷大学、京都産業大学、奈良大学、大阪大学、大阪成蹊大学、立命館大学の6大学から合計260名を受け入れた。

ボランティア関連事業

大阪歴史博物館では、市民参加型の開かれた博物館活動の重要な事業の一つとして、ボランティアを導入している。この活動は自らの興味・経験・知識・技術などを活かして、社会に貢献する場を市民に提供するとともに、来館者へのサービスを向上させ、博物館活動を活性化させることを目的としている。平成31（令和元）年度のボランティア登録者数は203名、活動日は休館日を除く毎日で279日間、のべ活動人数は5,266名であった。

●各グループの活動

◇遺跡探訪・歴史を掘る班

（活動者90名、延べ活動人数2,277名）

前期難波宮跡の管理棟遺構や倉庫跡などのガイドツアーの解説・誘導を行った。また、常設展示8階歴史を掘るコーナーで再現された遺跡を使ったプログラムの案内や説明を行った。5月3日と11月3日の「石組水路の一般公開」が延べ7名、5月4日と11月4日の「iPadで楽しむ難波宮遺跡探訪」は延べ10名が協力した。

◇スタンプラリー・ハンズオン班

（活動者113名、延べ活動人数2,989名）

10・9・7階の展示場において、大阪の歴史に関するクイズを解きながら見学する子ども向けスタンプラリーを実施している。また常設展示場内で体験型事業（ハンズオン）を来館者向けに実施しており、その運営および説明と来館者への補助を行った。ハンズオンは以下の6種類である。

10階：大宮人になってみよう！（奈良時代の官人の服を着る体験）／大極殿の土台をつくってみよう！（大極殿基壇を組み立てる立体パズル）

9階：両替商になってみよう！（江戸時代の両替商を体験）／投扇興に挑戦！（的に扇を投げて点数を競う遊び）

7階：大阪名所双六をやってみよう！（明治時代の双六で遊ぶ）／きものを着てみよう！（昔の着物を着る体験）

以上、6種類の他、2月には「浪花百景 貝合わせで遊ぼう！」を9階で実施した。

なお、上記以外に両班合同で「10階からのAR難波宮」を令和元年6月10日から令和2年2月21日まで実施し（延べ活動人数314人）、多数の参加があった。また、5月3日の「特設ハンズオン！ 大極殿の組物体験」に当たっては延べ5名の参加を得た。

●研修

8月6日「特別展 浮世絵猫の世界展」見学研修69名

10月27日 八尾市立歴史民俗資料館・しおんじやま古墳学習館 見学研修40名

3月10日に予定していた「特別展 猿描き狙仙三兄弟」の見学研修は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。

●異文化理解研修

3月15・17日にベトナムの歴史・文化・生活に詳しい外部講師による講演を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。

●ボランティア懇談会

ボランティアと博物館側の意思疎通を円滑にし、より

良いボランティア活動を推進していく目的で3月8日に懇談会を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止し、アンケートに切り替えた。

●平成31（令和元）年度ボランティアの次年度継続

平成31（令和元）年度に活動したボランティアの任期は、令和2年3月末までの1年間であった。次年度以降の継続意思を確認したところ、活動辞退者等が6名あり、197名を令和2年度の登録者とした。

連携事業・大阪歴史博物館友の会との連携

博物館群等の連携事業

大阪市の博物館・美術館等の施設が連携し、大阪の魅力をアピールするための事業を実施した。前年に引き続き地方独立行政法人大阪市博物館機構事務局による推進体制をとり、当館もそれに参画した。

●ミュージアム連続講座2019「世界遺産と文化財」

大阪市立難波市民学習センターにおいて12月5日から3週連続1日2講座（計6講座）を同センターと大阪市博物館機構他が開催し、当館からは12月5日に澤井浩一が「訪れる神と人びと」と題して講演した。

●広報誌「Osaka Museums」

大阪市博物館機構が、所管する6つの博物館・美術館と大阪市文化財協会の情報を掲載した情報誌10～12号を発行し、当館も情報を掲載した。

●教員のための博物館の日2019

大阪市博物館機構が主催する、教員向けに大阪市内の博物館・美術館を紹介する事業に参加した。6回目を迎える本年は8月2日に開催し、70名の教員・教育関係者の参加があった。参加校園の内訳は小学校45校、中学校9校、高等学校13校等であった。

大学との連携事業

●キャンパスメンバーズ制度

大阪市博物館機構の取り組みの一環としてキャンパスメンバーズ制度を導入しており、本年度は大阪市立大学、大阪大学、大阪教育大学、大阪芸術大学、大阪府立大学、大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎、大阪国際滝井高等学校、大阪府教育センター附属高等学校が会員となり、年間利用者は順に280名、501名、124名、101名、38名、36名、165名、36名であった。

●大阪市立大学との連携

大阪市博物館機構が法人として大阪市立大学と締結している包括連携協定事業に基づき実施される、下記の事業に参加した。

市大開講の博物館関連講義へ下記学芸員を派遣した。

- ・博物館経営論：大澤研一、澤井浩一
- ・博物館資料保存論：豆谷浩之、寺井 誠
- ・博物館展示論：大澤研一、豆谷浩之、李 陽浩、村元健一

包括連携協定企画の下記事業に学芸員を派遣した。

- ・OSAKA MUSEUMS 学芸員 TALK & THINK 11月2日「徳川大坂城築城400年①大坂の陣から大坂城再築へ」大澤研一、11月9日「徳川大坂城築城400年

②城郭石垣の到達点 徳川大坂城」松尾信裕

- 博学連携講座「中世の渡辺と渡辺党－淀川をめぐる武士団と信仰－」11月19日「中世の天満と天神社」大澤研一

●同志社女子大学との連携（共催事業）

※新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休館のため中止

3月7日 同志社女子大学講座「人に寄り添う心～難波と京における歩み～」講演と博物館案内ツアー

その他の連携事業

●大念佛寺との共催展示

大阪市内の文化財所有者と連携し文化財の公開・活用を促進する事業の一環として、本年度も大念佛寺宝物館（平野区）と共催の「平野と大念佛寺展」を開催した。

5月1～5日、入場者2,482名

●大阪商工会議所との連携

「大阪の名宝2020」カレンダーの製作・発行に協力し、館蔵品の写真提供、資料解説をおこなった。

共催事業

●香港中文大学文物館

ミュージアムプロフェッショナル交流プログラム

4月10日 20名

●第35回歴史学入門講座実行委員会

第35回歴史学入門講座「日本古代史研究の方法的模索－生存の問題を中心に－」今津勝紀氏（岡山大学社会文化科学研究科教授）7月7日 100名

●大阪市文化財協会 関西考古学の日2019

（主催：「関西考古学の日」実行委員会）

スタンプラリー・景品授与 7月20日～11月30日

●ICOM京都大会ICMAHオフサイトミーティング

ICMAH（考古学・歴史の博物館・コレクションの国際委員会）主催 9月5日 40名

当館の見学および学芸員交流、難波宮跡・大阪城の見学などを実施。

「大阪歴史博物館友の会」との連携

「大阪歴史博物館友の会」は平成26年度以降、自主運営団体として活動している。当館からは役員として顧問を派遣しているほか、幹事会での助言や総会での講演、見学会への講師派遣を6回実施し（21頁参照）、連携をはかった。なお、3月に予定されていた見学会（当館からの講師派遣含む）は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。平成31（令和元）年度の会員数は234名（家族会員を含む）。

平成31（令和元）年度 普及事業の回数（日数）と参加者数

事業	個別事業名	回数	参加人数
教育普及事業	講座・見学会その他	16	1,099
	特別展・特集展示・常設展示、講演会・展示解説	170	2,212
	なにわ歴博 わくわく子ども教室事業	38	1,884
	石組み水路公開・AR難波宮	4	209
	難波宮遺跡探訪・復元倉庫の公開	1,193	15,581
学校連携事業	学校職員の研修の受入れ	2	2
	教育支援および職業体験	10	49
	考古学体験教室	16	884
	博物館実習・見学実習の受入れ	16	313
地域・その他連携事業	共催事業ほか	2	120
ボランティア関連事業	研修	2	109
合計		1,469	22,462

文化庁補助金による取り組み

平成31年度文化庁補助金事業「地域と協働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」

平成30年度から5ヵ年計画で開始された事業で、今年度は2年目にあたる。新たに地方独立行政法人大阪市博物館機構が発足したことを受けて、実行委員会の構成団体は、当館および一般財団法人大阪市文化財協会・公益財団法人大阪国際交流センター・公益財団法人大阪観光局・地方独立行政法人大阪市博物館機構・大阪市立美術

館・大阪市立東洋陶磁美術館・大阪市立自然史博物館・大阪中之島美術館準備室・大阪市立科学館となった。

当館の関係では、10月26・27日に、大阪中之島美術館準備室と共同で「Come to Life! 大阪の映像資源を再発見」と題し、映像資源の保存と活用に関する特別レクチャー・座談会・上映会を実施した。また、9月5日には、ICOM京都大会に関連してICMAHオフサイトミーティングを当館とその周辺で実施し、職員との交流を図った。

広報宣伝活動

館の活動を広くPRし、来館者を誘致するため、報道各社や雑誌・情報サイト等各方面へ積極的に情報提供を行い、交通機関等への広告の掲出も実施した。主要な活動は下記のとおりである。

定例広報事業

●情報提供

各方面からの問い合わせにともなう本年度の情報提供件数は、特別展が255件、特集展示関係が153件、館全体に関する内容・その他が103件であった。

●印刷物の発行

昨年度に引き続き、年間展示予定（1回）、英語版年間展示予定（1回）、なにわ歴博カレンダー（70～73号）を発行した。※73号の配布は中止した。

その他の広報宣伝事業

●即位礼正殿の儀に伴う慶祝事業

10月22日、常設展示の観覧料を無料とし、1,994名の観覧者があった。

●関西文化の日2019

11月16・17日の2日間、常設展示の観覧料を無料とし、計3,075名の観覧者があった。

●ホームページの公開

ホームページでは特別展・特別企画展・特集展示の開催概要や出品資料などの情報と、各展覧会に関わる講演会をはじめとした関連イベントの案内情報を逐次公開しており、本年度は当館のホームページに368,391件（累計6,507,490件）、1日平均1,000件のアクセスがあった（前年度比で約84%）。また、1日の最大接続件数2,499件（10月22日）であった。このほかに携帯電話を対象とするモバイルサイト（上記ホームページアクセス件数に含む）や、外部サービスを利用した「なにわ歴史塾ブログ」を継続運用している。

●Twitterの公開

館の公式アカウントで展覧会、催事、トピックス等、日々の情報を発信した。ツイート数は596件、3月31日現在フォロワー数は4,508名である。

刊行物

平成31（令和元）年度は下記3件を刊行した。

●『大阪歴史博物館研究紀要 第18号』

A 4判84頁、令和2年3月

●『大阪歴史博物館館蔵資料集16 小絵馬 中コレクション・柴垣コレクション』

A 4判54頁、令和2年3月

●『共同研究成果報告書14』

A 4判69頁、令和2年3月

調査研究活動

大阪歴史博物館調査研究事業

調査研究事業は、年々高まる市民の方々の歴史に対する関心に応えるため、日常的な資料調査やテーマ研究を通じて成果を蓄積し、広く都市大阪の歴史的特質の解明に関わる検討を行うことを目的としている。とくに当館においては、難波宮の置かれた古代、商工都市として栄えた近世・近代の大阪の研究を重視して、「難波宮研究」および「大阪学研究」を課題とする。今年度は共同研究においては2テーマ、基礎研究においては1テーマを実施した。また平成28年度から29年度にかけて行われた共同研究「近年の発掘成果を基にした難波宮造営前後の都市様相に関する研究」の成果を『共同研究成果報告書14』に収録した。各研究テーマは以下の通りである。

●共同研究

◇比較都市研究 大坂と江戸

担当：豆谷浩之、大澤研一、岩佐伸一、中野朋子

なお、本研究課題の成果として、令和2年3月に『名所江戸百景と浪速百景』が東京都江戸東京博物館より刊行された。

◇近代大阪の茶の湯工芸に関する研究

担当：中野朋子

外部研究員：上仁理恵子（和泉市久保惣記念美術館）、内田彩加（湯木美術館）、宇野千代子（堺市博物館）、藤田清（藤田美術館）、前崎信也（京都女子大学）、宮井肖佳（逸翁美術館）

●基礎研究

◇博物館資料の3Dデータ化と公開に向けた調査・研究

担当：加藤俊吾

科学研究費助成事業による研究

【研究代表者】

◇基盤研究（C）：内藤直子

「『塹廻花』編纂史料の整理と翻刻－幕末明治期の彫金工に関する基礎情報の集約のために」

◇基盤研究（C）：李 陽浩

「先史～古代建築におけるゴヒラ材使用の歴史的解明」

◇基盤研究（C）：中野朋子

「藪明山の薩摩焼上絵付の技術革新と工房経営に関する研究」

◇基盤研究（C）：寺井 誠

「有文当て具痕跡から窺える律令国家成立前後の地方の主体性と対朝鮮半島交流の研究」

◇特別研究員奨励費：島崎未央

「近世中後期における油・種物の流通構造」

【外部機関の研究分担者】

◇基盤研究（C）：飯田直樹

研究代表者：大杉由香（大東文化大学）

「子どもの命と人権に関する地域史研究－近世・近代・現代社会の連続面と断続面を考える」

◇基盤研究（C）：杉本厚典

研究代表者：南 秀雄（大阪市文化財協会）

「大阪中心部における5～17世紀の治水・水防遺構と都市形成過程の研究」

個人の調査研究活動

● 柴原永遠男

・ 専攻分野

(1) 正倉院文書 (2) 東大寺史 (3) 古代難波地域史

・ 著述

『東大寺領横江荘と横江荘遺跡』『辻尾榮市氏古稀記念 歴史・民族・考古学論攷(1)』、大阪・郵政考古学会辻尾榮市氏古稀記念論攷刊行会、pp.121-145、令和元年6月

『紫香楽宮と大仏はどのように造営されたか』『夏季特別展Ⅱ 紫香楽宮と甲賀の神仏－紫香楽宮・甲賀寺と甲賀の造形－』、MIHO MUSEUM、pp.10-14、令和元年7月

『歌木簡の語ること』『學士會会報』940号、一般社団法人学士会、pp.33-37、令和2年1月

『古代難波の荘と物流－難波地域史の試み－』『共同研究成果報告書』14、大阪歴史博物館、pp.12-27、令和2年3月

『後期難波宮の内実』『大阪歴史博物館研究紀要』第18号、大阪歴史博物館、pp.1-18、令和2年3月

『古代なにわの輝き 天皇と大阪～象徴としての八十島祭～』第1部、産経新聞大阪本社、pp.4-45、令和2年3月

『孝徳紀にみえる諸宮－二段階造営説の再検討－』大阪市立大学難波宮研究会編『難波宮と大化改新』、和泉書院、pp.57-84、令和2年3月

・ 口頭発表

『後期難波宮の内実』大阪歴史博物館館長講演会6、大阪歴史博物館講堂、令和元年6月22日

『山田道安の大仏復興』華嚴宗教学研修会、東大寺本坊、令和元年9月14日

『武庫川をめぐる神・仏・人』武庫川学院創立80周年記念万葉歌碑除幕式記念講演、日下記念マルチメディア館、令和元年9月28日

『聖武天皇の難波行幸』シニア大学校開校式記念講演、大阪歴史博物館講堂、令和元年10月16日

『古代の紀伊と天皇の行幸』紀ノ川流域文化遺産活用地域活性化協議会歴史講演会、和歌山県民文化会館、令和元年10月19日

『歌木簡の研究とその課題』日本大学大学院特別講義、日本大学大学院3号館、令和元年10月24日

『行基集團の活動と律令国家』第18回GBS「東大寺と行基菩薩」基調講演、東大寺金鐘ホール、令和元年11月23日

『直木孝次郎先生の人と学問』直木孝次郎先生追悼のつどい、大阪市立大学田中記念館ホール、令和元年12月21日

『歌木簡はいかに発見されたか?』三輪山セミナー、三輪山会館能楽堂、令和2年1月25日

・ その他

『直木孝次郎先生を偲ぶ』『ヒストリア』273号、pp.82-83、大阪歴史学会、平成31年4月

『『東大寺叢書』の創刊に想う』宗報「けごん」103号、華嚴宗教学部、令和元年12月

編集『東大寺要録』二『東大寺叢書』2全388ページ、

東大寺発行、法蔵館製作、令和元年12月

『浪速、魚庭、ナルニワ 諸説紛々 歴史を知り 大阪を誇ろう 連載に当たって』産経新聞(夕刊)、令和2年1月

連載『古代難波の輝き 象徴としての八十島祭』第1部第1～20回、産経新聞(夕刊)、令和2年1～2月

『直木孝次郎第三代会長のご逝去を悼む』『条里制・古代都市研究』35号、pp.1-4、条里制・古代都市研究会、令和2年3月

● 大澤研一

・ 専攻分野

(1) 日本中世史 (2) 都市史、宗教史

(3) 都市的集落の形成と変容過程・空間構造、経済・宗教機能、対外交渉について

・ 著述

『豊臣秀吉を支えた小出秀政－直轄地支配の担い手－』『鴨東通信』108号、思文閣出版、pp.18-20、平成31年4月

『豊臣期の大阪城下町』塚田孝編『シリーズ三都 大阪巻』、東京大学出版会、pp.1-10、令和元年7月

『義士のふるさと「赤穂」と北前船の寄港地「坂越」をめぐる』『近畿文化』841号、近畿文化会事務局、pp.4-6、令和元年12月

『知られざる大坂本願寺－“大坂”の存在を知らしめた中世の寺院と町－』『経済人』2020年1月号、関西経済連合会、pp.16、令和2年1月

『朝鮮通信使と大阪』18.「北御堂と通信使2－境内の印象と伝承－」、19.「北御堂と通信使3－緊張の日々－」、20.「南御堂と通信使－注目の朝鮮陶磁器－」、

21.「通信使をもてなす料理1－食事提供のしかた－」、22.「通信使をもてなす料理2－食事のお味は?－」、23.「通信使をもてなす料理3－食をめぐるあれこれ－」、24.「大坂での文化交流1－通信使の記録にみる－」、25.「大坂での文化交流2－儒者前田菊叢の大坂訪問－」、26.「大坂での文化交流3－木村兼葭堂との交わり－」駐大阪韓国文化院HP、平成31年4月～令和2年2月

・ 口頭発表

『大坂冬の陣・夏の陣』大阪府高齢者大学校「大阪の史跡探訪科」、パル法円坂、令和元年6月19日

『真宗の伝流と大阪』高田派青年の集い大阪大会、大阪歴史博物館、令和元年6月23日

『大坂(石山)本願寺と大阪の町づくり』河中北組総代会総会、ホテルセイリュウ、令和元年7月1日

『海辺の道、紀州街道の成立と歩み－住吉参詣道と安立町－』住之江のまち案内ボランティアの会、粉浜福祉会館、令和元年9月21日

『歴史に学ぶ平野郷－在地都市の歩みと魅力－』大阪府高齢者大学校「大阪の史跡探訪科」、パル法円坂、令和元年10月2日

『太閤さんの大坂城下町づくり－大坂はいかにして流通経済都市となったか－』淀屋研究会、綿業会館、令和元年10月5日

『知られざる大坂本願寺－“大坂”に注目をもたらした

中世の寺院と町ー」関西経済連合会、中之島センタービル、令和元年10月7日

「徳川大坂城築城400年①江戸幕府にとっての大坂城ー大坂の陣から大坂城再築へー」大阪市博物館機構「OSAKA MUSEUMS 学芸員 TALK & THINK」、大阪市立東洋陶磁美術館、令和元年11月2日

「中世の天満と天神社」大阪市立大学・大阪市博物館機構包括連携事業「博学連携講座「中世の渡辺と渡辺党ー淀川をめぐる武士団と信仰ー」、大阪市立大学文化交流センター、令和元年11月19日

「融通念佛宗の成立と六別時ー丹南来迎寺の歴史によせてー」来迎寺文化財調査報告会、まつばらテラス(輝)、令和元年12月14日

「明智光秀ーその知られざる人物像と戦いに迫るー」近畿会「文化講演会」、キャッスルホテル、令和2年1月27日

「明智光秀と“石山合戦”」福知山史談会総会記念講演会、ハピネスふくちやま、令和2年2月23日

●その他

「ブラタモリ 大阪・ミナミ編」出演、NHK、令和元年5月18日

「紅花屏風 港は大阪？」コメント、山形新聞、令和元年7月7日

「ぶっちゃけ寺 特別編」出演、テレビ朝日、令和元年8月12日

「ネーミングバラエティー 日本人のお名前っ！」出演、NHK、令和2年1月30日

「大阪「天満」なぜあちこちに」コメント、日本経済新聞、令和2年3月17日

●松尾信裕

●専攻分野

(1) 日本考古学 (2) 中近世都市遺跡の研究

(3) 城下町をはじめとする中世から近世の都市の構造や形成過程の研究

●著述

「中世の四天王寺旧境内遺跡」『大阪歴史博物館研究紀要』第18号、大阪歴史博物館、pp.37-52、令和2年3月

「室町時代から江戸時代の八尾」「南北朝動乱以降の村のすがた」「八尾における寺内町の成立」「考古資料からみた八尾城の位置について」『新版 八尾市史考古編2』八尾市史編纂委員会、pp.397-423、令和2年3月

●口頭発表

「発掘調査からみた鎌倉時代の八尾」八尾市立歴史民俗資料館講座「平安・鎌倉時代の河内」、令和元年6月15日

「福知山城と黒井城下町」大阪歴史博物館友の会見学研修、令和元年7月6日

「石山(大坂)・豊臣・徳川の大坂城」高齢者大学校講座、令和元年7月17日

「松江藩の支城城下町ー富田・三刀屋・赤名ー」2019年度松江市史講座、令和元年8月17日

「亀岡市亀山城と城下町」大阪歴史博物館友の会見学

研修、令和元年10月13日

「大阪のあゆみー大坂城と城下町ー」大阪区民カレッジ天王寺校講座、令和元年10月28日

「大阪の町の成り立ちー今も残る秀吉の町ー」南納税協会講座、令和元年11月7日

「徳川大坂城築城400年② 城郭石垣の到達点徳川大坂城」OSAKA MUSEUMS 学芸員 TALK&THINK、令和元年11月9日

「小松山・道明寺・誉田の合戦」高齢者大学校講座、令和元年12月4日

「大阪の成り立ち」大阪観光ボランティア協会新人研修、令和元年12月5日

「城下町の成立と展開」大阪歴博友の会講演会、令和元年12月14日

「勝龍寺城」大阪歴史博物館友の会見学研修、令和2年1月25日

●調査活動

奈良県大和郡山城下町巡見 令和元年5月11日

泉佐野市佐野市街地巡見 令和元年5月15日

八尾市長八尾巡見 令和元年5月19日

泉佐野市日根野地区巡見 令和元年6月18日

京都府城陽市小樋尻遺跡出土縄文土器調査(京都府埋蔵文化財センター) 令和元年7月3日

奈良県宇陀市宇陀城下町巡見 令和元年7月16日

京都府亀岡城下町・園部城下町巡見 令和元年7月30日

岸和田城下町巡見 令和元年8月21日

鳥取県倉吉城下町巡見 令和元年9月23日

鳥取県鹿野・若桜城下町巡見 令和元年9月24日

奈良県大和郡山城下町巡見 令和元年10月26日

岡山県津山城巡見 令和元年11月24日

岡山県津山城下町巡見 令和元年11月25日

京都府京都市京都新城跡検出土垣検討会 令和2年2月5日

滋賀県百濟寺巡見 令和2年2月11日

神奈川県小田原市小田原城下町調査指導 令和2年2月21日

八尾市穴太廃寺・宮町遺跡調査指導 令和2年3月5日

●澤井浩一

●専門分野

(1) 畿内村落における祭祀組織の研究

(2) 近畿地方を中心とした芸能史研究

(3) 大正・昭和初期の大阪における興行史の研究

●著述

「五岳画『大阪安治川天保山風景』」『大阪松竹座七月大歌舞伎番付』、pp.55、令和元年7月

「大阪の祭り」と年中行事」『大阪春秋』175号、新風書房、pp.74-79、令和元年8月

「国員画『浪花百景 三大橋』」『大阪松竹座寿初春大歌舞伎番付』、pp.38、令和2年1月

●口頭発表

「三月節供と雛祭り」大阪自由大学 新・大阪学事始、淀屋橋マスターズ情報館、令和2年2月27日

●豆谷浩之

・専攻分野

- (1) 日本近世史、近世考古学 (2) 近世都市史
- (3) 大坂屋敷と都市建設の関係、大坂と江戸の都市比較

・著述

「『浪花百景』のうち「堀川備前陣家」について」東京都江戸東京博物館調査報告書第34集「名所江戸百景と浪花百景」、pp.356、令和2年3月

●松本百合子

・専攻分野

- (1) 考古学 (2) 仏教美術史、近世製油業の研究
- (3) 近世貿易陶磁の研究

・口頭発表

「古墳と博物館⑤～長原古墳群と大阪歴史博物館～」しおんじやま学び場、八尾市立しおんじやま古墳学習館、令和元年9月14日

「上町台地と難波宮」大阪観光ボランティアガイド協会、大阪歴史博物館、令和元年12月13日

「古墳時代の埴輪の船」古代史塾桃風童子、平野区民ホール、令和2年2月18日

・調査活動

大阪市立東洋陶磁美術館で灯火具の調査 令和元年6月28日

●岩佐伸一

・専攻分野

- (1) 美術史 (2) 日本絵画史
- (3) 江戸時代後期の上方の絵画

・著述

「狙仙三兄弟について」『猿描き狙仙三兄弟』図録所載論文、pp.130-137、令和2年2月

・その他

北島古美術研究所『日本近世絵画史研究』第2号（令和元年12月）所載論文の査読

●俵 和馬

・専攻分野

- (1) 民俗学 (2) 環境民俗学
- (3) 自然観、生業、民具

・著述

「8mmフィルム「天然記念物 但馬名勝 出石鶴山」撮影の背景－出石鶴山の歴史と映像の意義－」『大阪歴史博物館研究紀要』第18号、pp.53-62、令和2年3月

『大阪歴史博物館館蔵資料集16 小絵馬 中コレクション・柴垣コレクション』、令和2年3月

・口頭発表

「学芸員の仕事－小規模館の取り組みを中心に－」博物館概論（ゲストスピーカー）、近畿大学、令和元年5月21日

「里山としての生駒山」IKOMAサマーセミナー、生駒市、令和元年8月18日

・調査活動

和歌山県紀美野町の民俗調査（近畿大学民俗学研究所調査）令和元年8月10・11日、令和2年1月6・7日

●加藤俊吾

・専攻分野

- (1) 考古学、考古学史、博物館史
- (2) 金属器生産に関わる研究
- (3) 古代～近世における鑄鏡研究

・著述

「大阪歴史博物館所蔵の今熊野亀塚瓦経関係資料－山根徳太郎旧蔵の拓本と瓦経片－（前編）」『大阪歴史博物館研究紀要』第18号、pp.27-54、令和2年3月

・口頭発表

「田中芳男と堀田龍之助－明治初期の大阪における博物学と博物館をめぐる動向」第45回全国博物館学会研究大会、新潟県立歴史博物館、令和元年6月22日

●李 陽浩

・専攻分野

- (1) 建築史、都市史 (2) 古代東アジア建築史
- (3) 建築技法からみた難波宮の復元的研究

・著述

「『難波大蔵嶽』ノート：その用途をめぐって」、『辻尾榮市氏古稀記念 歴史・民族・考古学論攷』、pp.89-97、令和元年6月

「日本の飛鳥～奈良時代建築遺構の調査と復元・活用」、『公山城王宮遺跡復元考証研究』国際学術大会 古代東アジア 王宮と儀礼』、pp.135-146、令和元年8月

「難波宮跡：古代難波の宮殿建築」、大阪府建築士事務所協会編『まちなみ』43（504）、pp.9-12、令和元年9月

「難波宮：上町台地北端部に築かれた古代都城」、デアゴスティーニ・ジャパン『週刊日本の城 改訂版』147、pp.13-16、令和元年11月

「難波宮を歩く」、デアゴスティーニ・ジャパン『週刊日本の城 改訂版』154、pp.25-28、令和2年1月

「掘立柱建物SB1904の造営時期について」、『共同研究成果報告書』14、大阪歴史博物館、pp.33-49、令和2年3月

「大化改新と宮殿建築：新しい建築類型をめぐって」、大阪市立大学難波宮研究会編『難波宮と大化改新（日本史研究叢刊）』、pp.131-154、令和2年3月

「コラム東アジアの都城 朝鮮半島の都城遺跡」、大阪市立大学難波宮研究会編『難波宮と大化改新（日本史研究叢刊）』、pp.319-330、令和2年3月

・口頭発表

「日本の飛鳥～奈良時代建築遺構の調査と復元・活用」、「公山城王宮遺跡復元考証研究」国際学術大会『古代東アジア 王宮と儀礼』、韓国国立公州大学校博物館、令和元年8月

「山西省忻州市九原崗壁画墓の建築図と中国北朝の建築」、なみはや歴史講座（第113回）、NPO法人国際文化財研究センター、令和元年10月

「前期難波宮の建築的特質とその源流・末流」、シンポ

ジウム「難波宮と藤原宮」、帝塚山大学考古学研究所・附属博物館、令和2年2月

●飯田直樹

・専攻分野

- (1) 歴史学 (2) 日本近現代史
- (3) 都市史、社会福祉史

・著述

「町の近代化」塚田孝編『シリーズ三都 大坂巻』東京大学出版会、pp.135-159、令和元年7月

「La modernisation des cho- d'Osaka」『Histoire Urbaine』55、pp.35-56、令和元年8月

「解題 和泉市における相撲史関係資料」和泉市史編さん委員会編『近現代和泉の調査・研究Ⅱ（和泉市史紀要第29集）』、pp.95-99、令和元年11月

「近代大阪における福祉の構造と展開－方面委員制度と警察社会事業－」（大阪市立大学提出学位論文）、pp.1-198、令和元年12月

「「学芸員はがん」から考える」『長高同窓会報』第26号、pp.23、令和2年2月

「警察社会事業と武田慎治郎の感化実践－大阪府立修徳館と武田塾－」『大阪歴史博物館研究紀要』第18号、pp.19-36、令和2年3月

・口頭発表

「大阪の米騒動と方面委員の創設」部落問題研究所歴史研究会、部落問題研究所、平成31年4月27日

「近代大阪の「福祉」と民衆世界」大阪歴史科学協議会帝国主義研究部会、大阪市立西区民センター、令和元年5月13日

「近代大阪の「福祉」と民衆世界」大阪歴史科学協議会2019年度大会、関西学院大学、令和元年6月8日

「「福祉の複合体」としての大阪府方面委員制度」部落問題研究所歴史研究部会、大阪市立大学文化交流センター、令和元年8月3日

「明治期大阪の棄児と孤児院：二つの愛育社をめぐって」周縁的社会集団と近代－日本と欧米におけるアジア史研究の架橋2019年度総括シンポジウム2、大阪市立大学、令和元年9月8日

「大阪府方面委員制度の歴史的な性格」第57回部落問題研究者全国集会、同志社女子大学、令和元年10月27日

「日本史研究の立場から」（コメント）政治経済学・経済史学会冬期学術大会、早稲田大学、令和2年1月11日

・調査活動

大阪上本町・花月菴（田中家）土蔵内史料群緊急レスキュー調査 令和元年10月6・7日

・その他

川崎市市民ミュージアム被災収蔵品レスキュー活動 令和2年3月17～19日

●寺井 誠

・専攻分野

- (1) 考古学 (2) 日本列島と朝鮮半島の交流史
- (3) 当て具痕跡を基にした各地の須恵器・陶質土器の

製作技法比較

・著述

「朝鮮半島の角杯と角杯台」『辻尾榮一氏古稀記念 歴史・民族・考古学論攷（Ⅱ）』郵政考古学会、pp.178-196、令和元年6月

「難波など畿内に搬入された他地域産須恵器－有文当て具痕跡を基にして－」『共同研究成果報告書』14、大阪歴史博物館、pp.50-59、令和2年3月

「朝鮮半島系土器から見た渡来人の故地」『新版 八尾市史 考古編2』八尾市史編纂委員会、pp.245-249、令和2年3月

・口頭発表

「炊飯具から見た河内の渡来人のふるさと」喜連村史の会例会、令和2年2月1日

・調査活動

科学研究費補助金（基盤研究（C）19K01106「有文当て具痕跡から窺える律令国家成立前後の地方の主体性と対朝鮮半島交流の研究」）により以下のような資料調査を行った（主要な調査を抜粋）。

福岡市での木製当て具および当て具痕跡の調査 令和元年6月・令和2年3月

大阪府（近つ飛鳥博物館）・堺市での木製当て具の調査 令和元年8月・10月

鳥取県・島根県での当て具痕跡の調査 令和元年12月
石川県・富山県での土製当て具および当て具痕跡の調査 令和元年12月

韓国慶尚南道・慶尚北道での木製当て具および当て具痕跡の調査 令和2年2月

●中野朋子

・専攻分野

- (1) 美術史・服飾史
- (2) 近代工芸史、近世服飾史
- (3) 近代大阪の陶業史研究、近世後期の京坂における服飾・風俗動向の研究

・著述

「資料紹介 三好弥次兵衛「香茶棚物図誌」（「香茶棚物寸法之図」）」、『大阪歴史博物館 研究紀要』第18号、大阪歴史博物館、pp.67-85、令和2年3月

・調査活動

近代工芸品調査（大阪・個人宅） 令和2年2月

科学研究費補助金（基盤研究（C）19K00209「藪明山の薩摩焼上絵付の技術革新と工房経営に関する研究」）により、東京、横浜、名古屋、鹿児島、京都、兵庫、大阪で調査を行った。

●阿部文和

・専攻分野

- (1) 建築史 (2) 建築儀礼と棟札に関する研究

●内藤直子

・専攻分野

- (1) 刀剣外装・刀装具の研究
- (2) 近代大阪の工芸史研究

・論文

「刀装具と根付 2つの受贈記念展を開催して」『根付の雫』83号、日本根付研究会、令和2年3月

• 講演

「近年の特別展・企画展の動向」文化庁第11回指定文化財（美術工芸品）企画展示セミナー、令和元年10月7～10日

• 座談会

「安綱とその美の世界」春日大社、令和2年2月15日

• 調査活動

科学研究費補助金（基盤研究（C））「『鑿瓦花』編纂史料の整理と翻刻—幕末明治期の彫金工に関する基盤情報の集約のために」により、東京・島根などで調査や資料収集を行った。

●村元健一

• 専攻分野

- (1) 歴史学 (2) 古代の日中交渉
- (3) 難波宮と中国都城との比較研究

• 著述

「中国南北朝期の陵寺について」『歴史・民族・考古学論攷 第II集（郵政考古紀要 第71号）』、pp.308-326、令和元年6月

「隋洛陽の成立過程」『条里制・古代都市研究』第35号、pp.5-18、令和2年3月

「前期難波宮と唐の太極宮」大阪市立大学難波宮研究会編『難波宮と大化改新』和泉書院、pp.245-269、令和2年3月

「コラム 東アジアの都城 隋唐の長安」大阪市立大学難波宮研究会編『難波宮と大化改新』和泉書院、pp.270-276、令和2年3月

「コラム 東アジアの都城 隋唐の洛陽」大阪市立大学難波宮研究会編『難波宮と大化改新』和泉書院、pp.294-300、令和2年3月

「隋都城の成立過程—難波の都城化を考えるための覚書」『共同研究成果報告書』14、大阪歴史博物館、pp.28-37、令和2年3月

• 口頭発表

「古代難波宮とその周辺」NPO法人大阪観光ボランティアガイド協会、大阪歴史博物館、令和元年5月31日

「古代の上町台地と難波宮」古代史サークル「桃風童子」、平野区民ホール、令和元年6月18日

「中国北朝の都—北周と隋唐の長安—」NPO法人国際文化財研究センター、大阪韓国文化院、令和2年2月21日

●島崎未央

• 専攻分野

- (1) 日本近世史 (2) 流通社会史、都市史、村落史
- (3) 灯明油の生産と流通

• 著述

“Lamp Oil and the Transformation of Rural Society in Nineteenth-Century Japan” Urban Scope 10(May, 2019):3-9. Urban-Culture Research Center, OCU.

「種物問屋」『シリーズ三都 大坂巻』東京大学出版

会、pp.61-86、令和元年7月

• 口頭発表

「大坂城の下掃除をめぐる近郊農村との関係—鳴野村文書に即して—」周縁的社会集団と近代2019年総括シンポジウム2「巨大都市の社会構造と史料—上海と大阪を中心に—」、大阪市立大学、令和元年9月7日

「天満堀川の維持管理をめぐる諸問題—『堀川会所文書』の紹介を通して—」周縁的社会集団と近代セミナー、上海大学、令和2年1月12日

「幕末期における油の生産と流通構造—摂津国遠里小野を事例に—」、大阪歴史学会大会準備報告、クレオ大阪中央、令和2年3月13日

• 調査活動

科学研究費補助金（特別研究員奨励費18J00811）「近世中後期における油・種物の流通構造」により、関西を中心に調査や資料の収集を行った。

●杉本厚典

• 専門分野

- (1) 日本考古
- (2) GIS考古学、産業マップ、弥生土器・土師器の編年研究

• 著述

「古墳時代から奈良時代にかけての上町台地北部の金属器生産資料」『鑄造遺跡研究資料』、令和元年10月

「難波堀江の学際的再検討」『大阪市文化財協会研究紀要』第21号、南秀雄・小山田宏一・趙哲済・杉本厚典・中条武司・角哲也、pp.55-70、令和2年3月

• 口頭発表

「古墳時代から奈良時代にかけての上町台地北部の金属器生産資料」大阪府立狭山池博物館、令和元年10月5日

●八木 滋

• 専攻分野

- (1) 日本近世史
- (2) 流通社会史、都市史
- (3) 市場社会、両替商、都市開発

●安岡早穂

• 専攻分野

- (1) 考古学 (2) 生業史
- (3) 前近代の漁撈活動・食文化に関わる研究

• 著述

「近世の食文化—大坂城下町とその周辺の事例—」『近世町人の食文化』関西近世考古学研究会26、pp.27-36、令和元年12月

• 口頭発表

「近世の食文化—大坂城下町とその周辺の事例—」関西近世考古学研究会、大手前大学、令和元年12月7・8日

平成31（令和元）年度大阪歴史博物館入場者数

月	平成31（令和元）年度 常設展					平成31（令和元）年度 特別展					合計	その他 入場
	有料		有料計	無料	常設展計	有料		有料計	無料	特別展計		
	一般	高・大生				一般	高・大生					
4	13,299	1,005	14,304	3,953	18,257	0	0	0	0	0	18,257	4,573
5	15,608	1,247	16,855	6,676	23,531	0	0	0	0	0	23,531	4,626
6	16,756	1,075	17,831	7,123	24,954	0	0	0	0	0	24,954	6,700
7	19,132	1,316	20,448	4,846	25,294	1,495	144	1,639	997	2,636	27,930	6,919
8	22,461	1,753	24,214	7,522	31,736	12,657	1,084	13,741	7,727	21,468	53,204	7,136
9	14,311	737	15,048	4,106	19,154	3,657	354	4,011	1,897	5,908	25,062	4,931
10	13,338	934	14,272	9,938	24,210	2,167	205	2,372	6,756	9,128	33,338	6,867
11	11,543	597	12,140	16,911	29,051	2,928	240	3,168	14,364	17,532	46,583	8,313
12	9,825	641	10,466	4,435	14,901	170	18	188	210	398	15,299	4,748
1	12,766	650	13,416	4,238	17,654	0	0	0	0	0	17,654	6,008
2	7,175	549	7,724	3,092	10,816	254	12	266	207	473	11,289	4,492
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	156,214	10,504	166,718	72,840	239,558	23,328	2,057	25,385	32,158	57,543	297,101	65,313
									総合計	362,414		

※その他入場には、2・4階貸室利用者数、4階講堂での各種講演会・イベント参加者数、1階エントランスでの「わくわく子ども教室」参加者数などが含まれる。

※4月30日・8月13日 臨時閉館

※8月15日・10月12日 台風のため臨時休館

※令和2年2月29日～令和2年6月1日 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館

受嘱・派遣・視察

受嘱

期間	内容	担当者
平成31年4月1日～令和2年3月31日	和泉市史編さん専門委員	大澤 研一
平成31年4月1日～令和2年3月31日	和泉市史編さん調査執筆委員	飯田 直樹
平成31年4月1日～令和元年9月30日	第65回全関西美術展実行委員会監事	大対 好行
令和元年10月1日～令和2年3月31日	第65回全関西美術展実行委員会監事	佐藤 周平
令和元年5月8日～令和2年3月31日	松江市史専門部会（松江城部会）専門委員	松尾 信裕
令和元年5月8日～令和2年3月31日	松江城調査研究委員会委員	松尾 信裕
令和元年6月21日～令和3年6月の定時評議委員会	一般財団法人大阪市文化財協会理事	栄原永遠男
令和元年5月17日	「平成の名刀・名工展」授賞式の審査及び講評	内藤 直子
令和元年6月13日	「2019年度現代刀職展 研磨・白鞘・刀装・柄前・白銀の部」審査委員	内藤 直子
令和元年10月1日より	和泉市文化財保護審議委員、和泉市教育委員会	栄原永遠男
令和元年10月11日	第十四回「お守り刀展覧会」審査員	内藤 直子
令和2年1月17日	京都国立博物館買取・寄贈評価委員	内藤 直子

派遣依頼対応

日付	派遣先	担当者
4/13	喜連村史の会	豆谷 浩之
4/17	明大博物館友の会「飛鳥・藤原を学ぶ会」	村元 健一
5/10	NPO法人大阪府高齢者大学校	飯田 直樹
5/18	喜連村史の会	豆谷 浩之
5/26	大阪歴史博物館友の会	大澤 研一
5/26	大阪歴史博物館友の会	松尾 信裕
5/26	大阪歴史博物館友の会	安岡 早穂
5/31	NPO法人大阪観光ボランティアガイド協会	村元 健一
6/15	喜連村史の会	豆谷 浩之
6/15	公益財団法人八尾市文化財調査研究会	松尾 信裕
6/15	奈良大学	寺井 誠
6/19	NPO法人大阪府高齢者大学校	大澤 研一
7/6	大阪歴史博物館友の会	松尾 信裕
7/17	NPO法人大阪府高齢者大学校	松尾 信裕
7/20	喜連村史の会	豆谷 浩之
8/17	松江市史料編纂課	松尾 信裕
8/17	喜連村史の会	豆谷 浩之
8/18	生駒市教育委員会	俵 和馬
8/24	大阪歴史博物館友の会	安岡 早穂
9/6	NPO法人大阪府高齢者大学校	飯田 直樹
9/14	八尾市立しおんじま古墳学習館	松本百合子
9/19	大学共同利用機関法人人間文化研究機構	豆谷 浩之
9/21	喜連村史の会	豆谷 浩之
9/29	関西テレビ株式会社	中野 朋子
10/2	NPO法人大阪府高齢者大学校	大澤 研一
10/4	NPO法人大阪観光ボランティアガイド協会	村元 健一
10/9	文化庁	内藤 直子
10/12	関西大学博物館	内藤 直子
10/13	大阪歴史博物館友の会	松尾 信裕

日付	派遣先	担当者
10/16	NPO法人シニア自然大学校	栄原永遠男
10/19	喜連村史の会	豆谷 浩之
10/28	NPO法人大阪区民カレッジ	松尾 信裕
11/2	大阪市博物館機構経営企画課 (東洋陶磁美術館)	大澤 研一
11/7	公益財団法人南納税協会	松尾 信裕
11/9	大阪市博物館機構経営企画課 (東洋陶磁美術館)	松尾 信裕
11/15	大阪市立天満中学校	澤井 浩一
11/16	喜連村史の会	豆谷 浩之
11/17	徳島県立鳥居龍蔵記念博物館	松尾 信裕
12/3	日本放送協会制作局	大澤 研一
12/4	NPO法人大阪府高齢者大学校	松尾 信裕
12/5	NPO法人大阪観光ボランティアガイド協会	松尾 信裕
12/5	大阪市博物館機構経営企画課 (大阪市立難波市民学習センター)	澤井 浩一
12/13	NPO法人大阪観光ボランティアガイド協会	松本百合子
12/14	大阪歴史博物館友の会	松尾 信裕
12/21	喜連村史の会	豆谷 浩之
12/25	春日大社	内藤 直子
1/18	喜連村史の会	豆谷 浩之
1/22	NPO法人大阪府高齢者大学校	豆谷 浩之
1/25	大阪歴史博物館友の会	松尾 信裕
2/1	喜連村史の会	寺井 誠
2/15	喜連村史の会	豆谷 浩之
2/21	公益財団法人かながわ考古学財団	松尾 信裕
3/16	文化庁	内藤 直子
3/17~19	川崎市市民ミュージアム被災収蔵品レスキュー	飯田 直樹
3/21	喜連村史の会	豆谷 浩之

視察受入

日付	来訪者	人数 (大人)	人数 (高校生)	対応者
8月6日	静岡市観光交流文化局歴史文化課	3		豆谷 浩之
8月7日	大阪市立地交流推進部都市間交流	2		入館のみ
9月18日	大阪市中学生国際交流事業 (オーストラリア、中学生)	24		入館のみ
10月2日	江東区文化コミュニティ財団	3		豆谷 浩之
11月29日	シカゴレイクビュー高校・大阪市立南高校	5	17	入館のみ
1月24日	大阪市メルボルン派遣者	2		入館のみ

大学への非常勤講師派遣

大学名	科目等	担当者
大阪芸術大学	服飾史	中野 朋子
大阪大学	博物館学 (概論)	加藤 俊吾
大阪市立大学	日本史特講IV	飯田 直樹

利用規程

大阪歴史博物館利用規程
制定 平成31年4月1日

(趣旨)

第1条 大阪歴史博物館（以下「博物館」という。）の利用に関しては、この規程の定めるところによる。

(休館日)

第2条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

(1) 火曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その日後最初に到来する休日以外の日）

(2) 12月28日から翌年1月4日まで

2 前項の規定にかかわらず、博物館の館長（以下「館長」という。）は、博物館の設備の補修、点検若しくは整備、天災その他やむを得ない事由があるとき又は博物館の効用を発揮するため必要があるときは、事前に又は速やかに理事長の承認を得て同項の規定による休館日を変更し、又は臨時の休館日を定めることができる。

3 館長は、前項の休館を行う場合、事前に又は速やかにその内容を公告しなければならない。

(供用時間)

第3条 博物館の供用時間は、午前9時30分から午後5時までとする。

2 前条第2項及び第3項の規定は、博物館の供用時間について準用する。この場合において、同条第2項中「前項」とあるのは「第3条第1項」と、「休館日を変更し、又は臨時の休館日を定める」とあるのは「供用時間を変更する」と、同条第3項中「前項」とあるのは「第3条第2項の規定により読み替えられた第2条第2項」と読み替えるものとする。

(使用の許可)

第4条 別表第1に掲げる博物館の施設（以下「施設」という。）を使用しようとする者は、館長の許可を受けなければならない。

(使用許可の制限)

第5条 次の各号のいずれかに該当するときは、館長は、施設の使用を許可しない。

- (1) 公安又は風俗を害するおそれがあるとき
- (2) 建物、設備又は展示品等を損傷するおそれがあるとき
- (3) 管理上支障があるとき
- (4) 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団の利益になるとき
- (5) その他不相当と認めるとき

(使用許可の取消し等)

第6条 次の各号のいずれかに該当するときは、館長は、施設の使用の許可を取り消し、その使用を制限し、若しくは停止し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 偽りその他不正の手段により第4条の許可（以下「使用許可」という。）を受けたとき
- (2) 前条各号に定める事由が発生したとき
- (3) この規程に違反し、又はこの規程に基づく指示に

従わないとき

(意見の聴取)

第7条 館長は、必要があると認めるときは、第5条第4号に該当する事由の有無について、大阪府警察本部長の意見を聴くよう理事長に求めるものとする。

2 理事長は、前項の規定による求めがあったときは、第5条第4号に該当する事由の有無について、大阪府警察本部長の意見を聴くことができる。

(入館の制限)

第8条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を断り、又は退館させることができる。

- (1) 他人に危害を及ぼし、又は迷惑となる行為をするおそれがある者
- (2) 建物、設備又は展示品を損傷するおそれがある者
- (3) 他人に危害を及ぼし、若しくは他人に迷惑となる物品又は動物を携行する者
- (4) 管理上必要な指示に従わない者
- (5) その他管理上支障があると認めるとき

(特別観覧の許可)

第9条 博物館等資料について特別の観覧をしようとする者は、館長の許可を受けなければならない。

2 特別の観覧に関する手続きについては、別に定める。

(貸出しの許可)

第10条 博物館等資料の貸出しを受けようとする者は、館長の許可を受けなければならない。

2 博物館等資料の貸出しに関する手続きについては、別に定める。

(利用料金)

第11条 博物館を観覧し、又は施設及びその附属設備を使用しようとする者は、館長に利用料金を支払わなければならない。ただし、学校教育法（昭和22年法律第26号）第17条第1項に定める小学校就学の始期に達しない者、小学校（これに準ずるものを含む。）の児童及び中学校（これに準ずるものを含む。）の生徒に係る観覧料については、この限りでない。

2 利用料金の額は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める金額の範囲内において、館長があらかじめ理事長の承認を得て定める。利用料金の額を変更しようとするときも、同様とする。

- (1) 観覧料 1人1回につき別表第2に掲げる金額
- (2) 施設使用料 別表第1に掲げる金額（施設の附属設備については、別に定める種別に応じて館長が要項で定める金額）

3 日曜日、土曜日及び休日における施設の使用に係る施設使用料の額は、前項の規定による金額の2割増しの範囲内において、館長があらかじめ理事長の承認を得て定める。当該施設使用料の額を変更しようとするときも、同様とする。

4 施設の使用許可を受けた者（以下「使用者」という。）が入場料その他これに類する料金を徴収する場合における施設の使用に係る施設使用料の額は、前2項の規定による金額の5割増しの範囲内において、館長があらかじめ理事長の承認を得て定める。当該施設使用料の額を変更しようとするときも、同様とする。

5 理事長は、前3項の承認（貸出し料の額に係るものを除く。）を行ったときは、速やかに当該承認を行った利用料金の額を公告するものとする。

- 6 館長は、公益上の必要その他特別の事由があると認めるときは、別に定める要項に基づき、利用料金を減額し、又は免除することができる。
- 7 館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、既納の利用料金の全部又は一部を還付することができる。
- (1) 災害その他使用者の責めに帰すことのできない特別の事由により施設を使用することができなくなったとき
 - (2) 使用者が施設の使用を開始する前に使用許可の取消しを申し出た場合において、館長がその理由を相当と認めて当該使用許可を取り消したとき
 - (3) その他館長が特別の事由があると認めるとき

(特別設備)

第12条 使用者は、館長の許可を受け、特別の設備をすることができる。

2 館長は、使用者に対して必要な設備をすることを命ずることができる。

3 使用者が前第1項、第2項の規定により、特別の設備をしたときは、使用後直ちにこれを撤去して、原状に復さなければならない。

(損害の賠償及び事故の責任)

第13条 博物館を観覧する者又は施設の使用の許可を受けた者が建物、設備又は博物館等資料を損傷し、又は亡失したときは、理事長の定めるところに従い、これを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

2 使用者は、使用に関して生じた一切の事故につき、その責めを負うものとする。

附 則

(施行期日)

- 1 この規程の施行期日は、平成31年4月1日とする。
- 2 本規定の施行前に納付された利用料金については、なお従前の例による。

別表第1（第4条、第11条関係）

区分	施設使用料
講 堂	1室1日につき 36,000円
第1研修室	1室1日につき 15,200円
第2研修室	1室1日につき 8,200円
第1会議室	1室1日につき 7,500円
第2会議室	1室1日につき 7,000円
第3会議室	1室1日につき 7,300円
特別展示室	1室1日につき 96,800円

別表第2（第11条関係）

区分		観覧料	団体（20人以上）観覧料
常 設 展示室	高等学校、高等専門学校、大学及びこれらに準ずる教育施設に在学する者	400円	360円
	その他の者	600円	540円
特 別 展示室	高等学校、高等専門学校、大学及びこれらに準ずる教育施設に在学する者	1,600円	1,440円
	その他の者	2,400円	2,160円

運営組織

大阪歴史博物館は、大阪府が設立する地方独立行政法人大阪府博物館機構が設置し、管理運営を行う。

組織

館 長	栄原永遠男		
副館長	大澤研一		
総務課	課 長	大対好行 佐藤周平（10月より）	
	課長代理	下澤英之	
	係 員	川端優子 安田 縁 山本幸恵 鈴木得記子 古賀寿生 三宅美智雄	
企画広報課	課 長	澤井浩一	
	企画広報係	係 長	松本百合子
		主任学芸員	岩佐伸一
		係 員	俵 和馬 柴田晃子
	情報資料係	係 長	加藤俊吾
		主任学芸員	李 陽浩
		係 員	飯田直樹 小林佳美 宮下愛子
研究主幹	松尾信裕		
学芸課	課 長	大澤研一（兼務）	
	課長代理	豆谷浩之	
	学芸第1係	係 長	寺井 誠
		主任学芸員	中野朋子
		係 員	阿部文和
	学芸第2係	係 長	内藤直子
		主任学芸員	村元健一
		係 員	島崎未央（10月より）
	学芸第3係	係 長	杉本厚典
		係 員	八木 滋 安岡早穂 柴田善美

人事

新規採用（平成31年4月1日）

企画広報課 係 員 俵 和馬
学芸課 係 員 阿部文和

新規採用（令和元年10月1日）

総務課 課 長 佐藤周平
学芸課 係 員 島崎未央

退職（令和元年9月30日）

総務課 課 長 大対好行

退職（令和2年3月31日）

館 長 栄原永遠男
副館長兼学芸課長 大澤研一
研究主幹 松尾信裕
総務課 課長代理 下澤英之
係 員 鈴木得記子
三宅美智雄

●栄原永遠男館長の退任と名誉館長称号授与

令和2年3月末日付けで栄原永遠男館長が退任された。平成26年4月の就任から6年間、大阪歴史博物館を支えていただいた。

就任の平成26年6月には、館長の専門分野のテーマと合致する特別展「難波宮発掘調査60周年記念 大阪遺産 難波宮－遺跡を読み解くキーワード－」の開催を進めており、着任早々に図録原稿の執筆、新館長就任記念講演会をしていただいた。学術面では、その後の『研究紀要』にはほぼ毎年度、論文投稿をされ、当館の研究成果にさらに厚みを加えていただいた。

普及事業では、ご自身でできることから、講演を中心とした企画を立ち上げられた。館長講座「館長と学ぼう 新しい大阪の歴史」は各分野の学芸員の講演と館長との対談を組み合わせた催しで、平成29年度まで4年で20回の講座となり、書籍化されるに至った。また就任2年日以降も専門分野の古代史、難波宮をテーマとする館長講演会を継続された。友の会でも、専門に基づく講演や紫香楽宮跡見学会などで企画協力された。

館運営においては、様々な提案をいただき、館の組織づくりの面でも先頭に立って動かれた。館長在任期間は、ちょうど公益財団法人大阪市博物館協会から地方独立行政法人への移行期にあたっており、大阪市立大学在職時の経験から独法化に向けての館運営や体制整備について心を砕き、尽力いただいた。

館長退任にともない、地方独立行政法人大阪市博物館機構から大阪歴史博物館名誉館長の称号が授与された。

[経歴]

昭和21年（1946）東京都生まれ
昭和44年（1969）京都大学文学部卒業
昭和49年（1974）京都大学大学院文学研究科
単位取得退学
昭和50年（1975）追手門学院大学文学部専任講師
昭和53年（1978）同助教授
昭和56年（1981）大阪市立大学文学部助教授
平成6年（1994）同教授
平成13年（2001）同大学院文学研究科教授
平成22年（2010）同名誉教授
平成23年（2011）東大寺史研究所所長
平成26年（2014）大阪歴史博物館館長

[主著]

『天平の時代』集英社、平成3年
『奈良時代流通経済史の研究』塙書房、平成4年
『日本古代銭貨流通史の研究』塙書房、平成5年、第16
回角川源義賞
『奈良時代の写経と内裏』塙書房、平成12年
『奈良時代写経史研究』塙書房、平成15年
『紀伊古代史研究』思文閣出版、平成16年
『万葉歌木簡を追う』和泉書院、平成23年
『日本古代銭貨研究』清文堂、平成23年
『正倉院文書入門』角川学芸出版、平成23年
『聖武天皇と紫香楽宮』敬文舎、平成26年

大阪歴史博物館年報 平成31（令和元）年度
令和2年8月31日発行©

編集・発行 大阪歴史博物館
〒540-0008 大阪市中央区大手前4丁目1-32

印刷・製本 丸山印刷株式会社
〒530-0042 大阪市北区天満橋1-4-16

ANNUAL REPORT
of
Osaka Museum of History
Aug. 2020